
呉市海事歴史科学館 リニューアル基本計画(案)

令和4年3月

海事歴史科学館 学芸課

目次

序章

- 1 主 旨 02
- 2 大和ミュージアムの概要
 - (1) 大和ミュージアム設立時の基本方針・方向性 03
 - (2) 施設規模
 - (3) 主な諸室・機能
 - (4) 沿革 04
 - (5) 来館者推移
 - (6) 現況平面図敷地・ 05 ~ 09
1階・2階・3階・4階

2 章 大和ミュージアムの課題

- 1 大和ミュージアムの施設課題
 - (1) エントランス周辺 11
 - (2) 大和ホール
 - (3) 大和シアター
 - (4) 収蔵環境 12
 - (5) 駐車場 13
 - (6) 屋外
 - (7) 館内設備 14
 - (8) 災害対策 15
- 2 大和ミュージアムの展示課題
 - (1) 呉の歴史展示室 16
 - (2) 大型資料展示室 17
 - (3) 船をつくる技術展示室

3 章 大和ミュージアム リニューアル基本方針

- (1) リニューアル基本方針 19
- (2) 大和ミュージアムの新しい
基本方針・方向性

4 章 大和ミュージアムの改修(リニューアル)

- 1 各エリアの施設改修案
 - (1) エントランス周辺 21・22
 - (2) 大和ホール 23
 - (3) 大和シアター 24
 - (4) 収蔵機能 25 ~ 27
 - (5) 駐車場 28 ~ 30
 - (6) 屋外 31
 - (7) 建築・設備等 32 ~ 38
 - (8) 災害対策 39
- 2 各エリアの展示改修案
 - (1) 全体展示ストーリー 40
 - (2) 呉の歴史展示室 改修案 41 ~ 44
 - (3) 大型資料展示室(改修案)及び 45 ~ 47
公開型大型資料収蔵庫(新設)
 - (4) 科学技術展示室(仮) 改修案 48 ~ 51
- 3 リニューアルに際した取り組みの検討
 - (1) 情報発信の取り組み 52

5 章 リニューアル開館に向けて

- リニューアル開館に向けて 54
 - (1) 施設改修・展示改修
 - (2) 公開型大型資料収蔵庫、駐車場、屋外整備
 - (3) 全体スケジュール(予定)
 - (4) 概算事業費

序 章



呉市は、明治22(1889)年に呉鎮守府が開庁し、明治36(1903)年には呉海軍工廠が設置され、戦前においては、戦艦「大和」を建造した東洋一の軍港、日本一の海軍工廠、世界でも有数の海軍・航空機関連産業が集積したまちとして栄えてきた。また、戦後においては、戦前から培われてきた技術が新しい技術と結び付き、世界最大のタンカーを数多く建造する有数の臨海工業都市として発展し、我が国が戦後約10年で世界の造船国へと発展する一翼を担ってきた。

呉市海事歴史科学館(以下「大和ミュージアム」とする。)は、こうした明治以降の日本の近代化の歴史そのものである「呉の歴史」と、その近代化の礎となった造船・製鋼・航空機を始めとした各種の「科学技術」を先人の努力や当時の生活・文化に触れながら紹介することにより、我が国の歴史と平和の大切さを認識していただくとともに、科学技術創造立国を目指す日本の将来を担う子どもたちに科学技術の素晴らしさを伝え、未来に夢と希望を抱けるような「呉らしい博物館」とすることにより、地域の教育、文化、観光等に大きく寄与することを目的として、平成17年4月に開館した。

館内には、零式艦上戦闘機六二型などの貴重な実物資料のほか、船を中心とした科学技術の原理を体験・体感を通して分かりやすく紹介している展示室があり、毎週土日にはワークショップやサイエンスショーを開催している。

現在、開館以来の総来館者数が1,400万人を超え、平成30年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染拡大が続く中においても、県内外から多くの方に来館していただいている呉市最大の集客施設となっている。

一方で、当初の想定を上回る来館者数に起因して、施設・設備に過剰な負担が掛かっているにもかかわらず、これまで大規模なリニューアルを実施していないことなどから、施設内外に経年劣化などの様々な課題が生じている。

加えて、開館以来、大規模な展示更新をしていないことから、来館者層の変化への対応や最近の調査研究の成果、最新の情報が反映されていないなどの課題があり、展示の手法や内容の充実、デジタル化等についても検討する必要がある。近年、呉市の産業構造にも変化が見られ、半導体製造装置や計測器のような精密機械、自動車・航空機部品の製造、発電設備や環境設備などの製造業が、旧海軍工廠から続く技術などを元にして伸びてきている。

このような呉市の産業構造の変化とともに、呉駅周辺の再開発や青山クラブの活用など、当館を取り巻く環境の変化も勘案しながら、更に魅力的な施設となるよう、リニューアルに向けた施設及び展示の今後の在り方や事業手法等について、令和元年度から調査・検討に取り組んでいる。

本リニューアル基本計画(以下「本計画」とする。)では、これまでの調査・検討を踏まえて、大和ミュージアムリニューアルにおける展示改修及び施設改修の基本的な計画を策定することを目的とする。



2 | 大和ミュージアムの概要

(1) 大和ミュージアム設立時の基本方針・方向性

基本方針

- 1 歴史的見地** 造船技術等を通し、呉の歴史を後世に伝えます。
- 2 学術的見地** 呉が過去から深くかかわってきた科学技術を新しい時代に活かします。
- 3 教育的見地** 市民が生涯学習を実践していくための環境整備を行います。
平和の大切さを未来に伝えます。
- 4 まちづくり的見地** 周辺施設と調和を図り、人々が集う施設とします。

方向性

- 1** 地域と一体となった博物館
- 2** 呉の歴史がわかる博物館
- 3** 科学技術の素晴らしさ・科学の原理のわかる博物館
- 4** 市民の自発的な学習を支援する博物館
- 5** 人が集まり情報を受・発信する博物館
- 6** 楽しむ場となる博物館

(2) 施設規模

- 構造・規模 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・鉄筋コンクリート造4階建て
- 敷地面積 10,334㎡
- 建築面積 4,818㎡
- 延床面積 9,628.33㎡

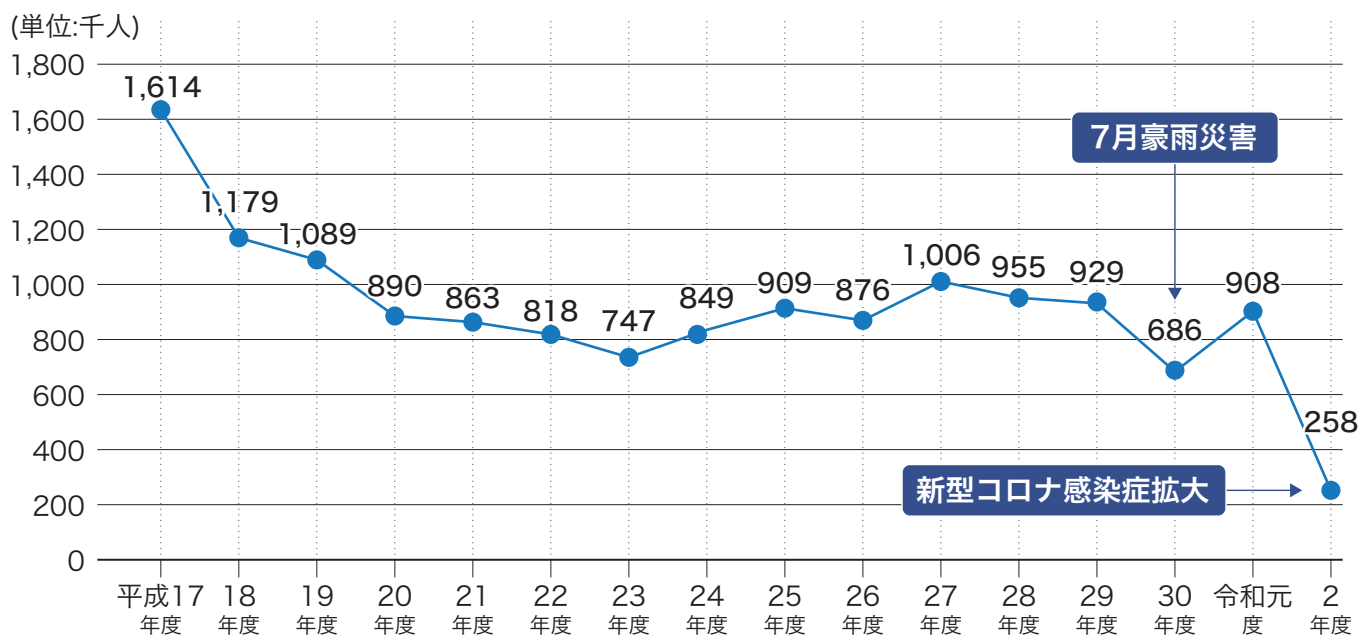
(3) 主な諸室・機能

- 1 階 エントランス／大和ひろば／「呉の歴史」展示室／大型資料展示室／大和ホール／ミュージアムショップ
- 2 階 展示デッキ／事務室・館長室
- 3 階 「船をつくる技術」展示室／大和シアター／実験工作室
- 4 階 ライブラリー／市民ギャラリー／会議室・研修室／研究室／資料室／書庫
- 屋外 駐車場／屋外実物資料／屋外レンガパーク

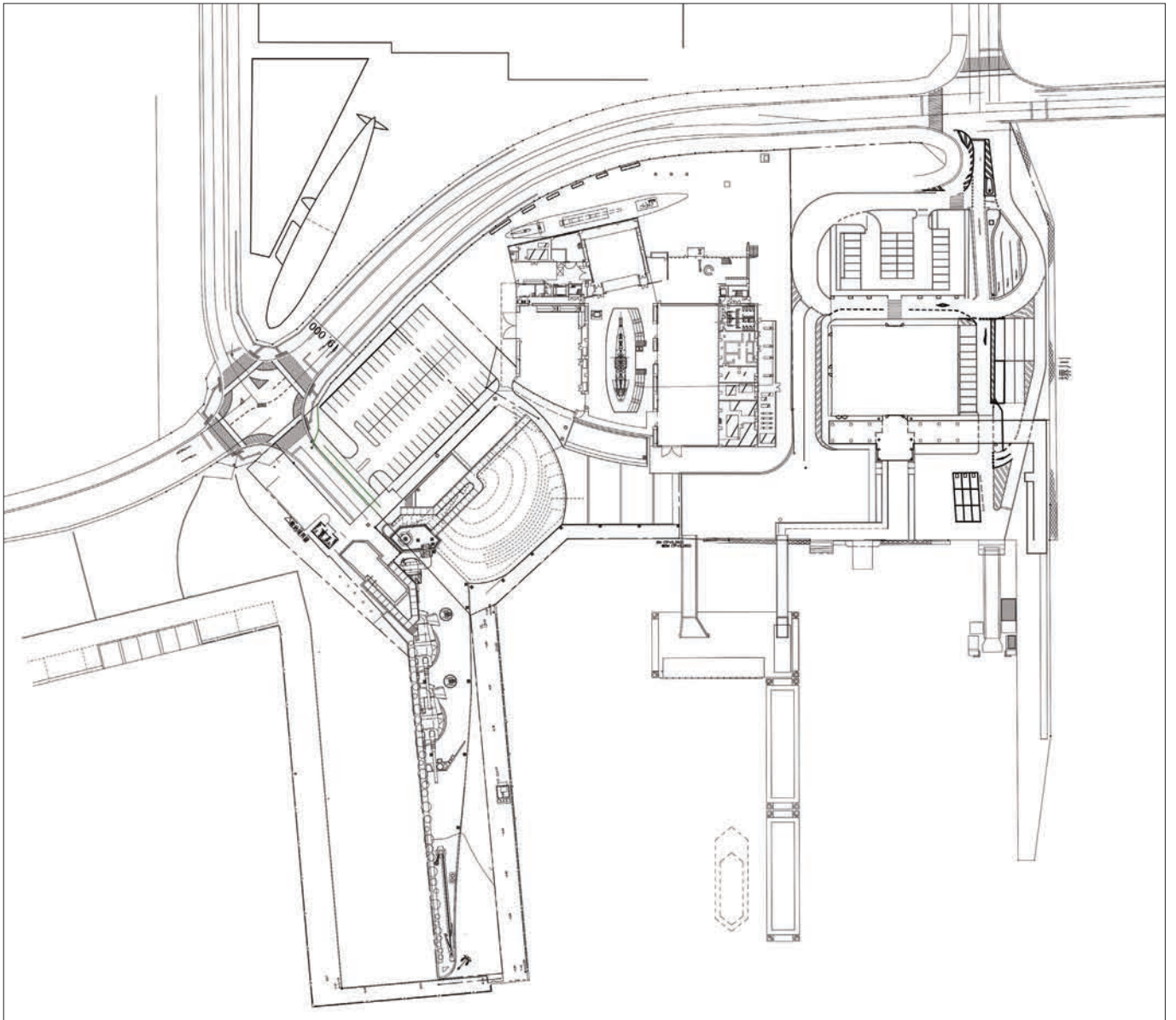
(4) 沿革

- 平成17年4月開館
- 平成20年4月指定管理者制度導入
- 平成28年5月戦艦「大和」潜水調査
- 令和元年10月来館者累計1,400万人達成

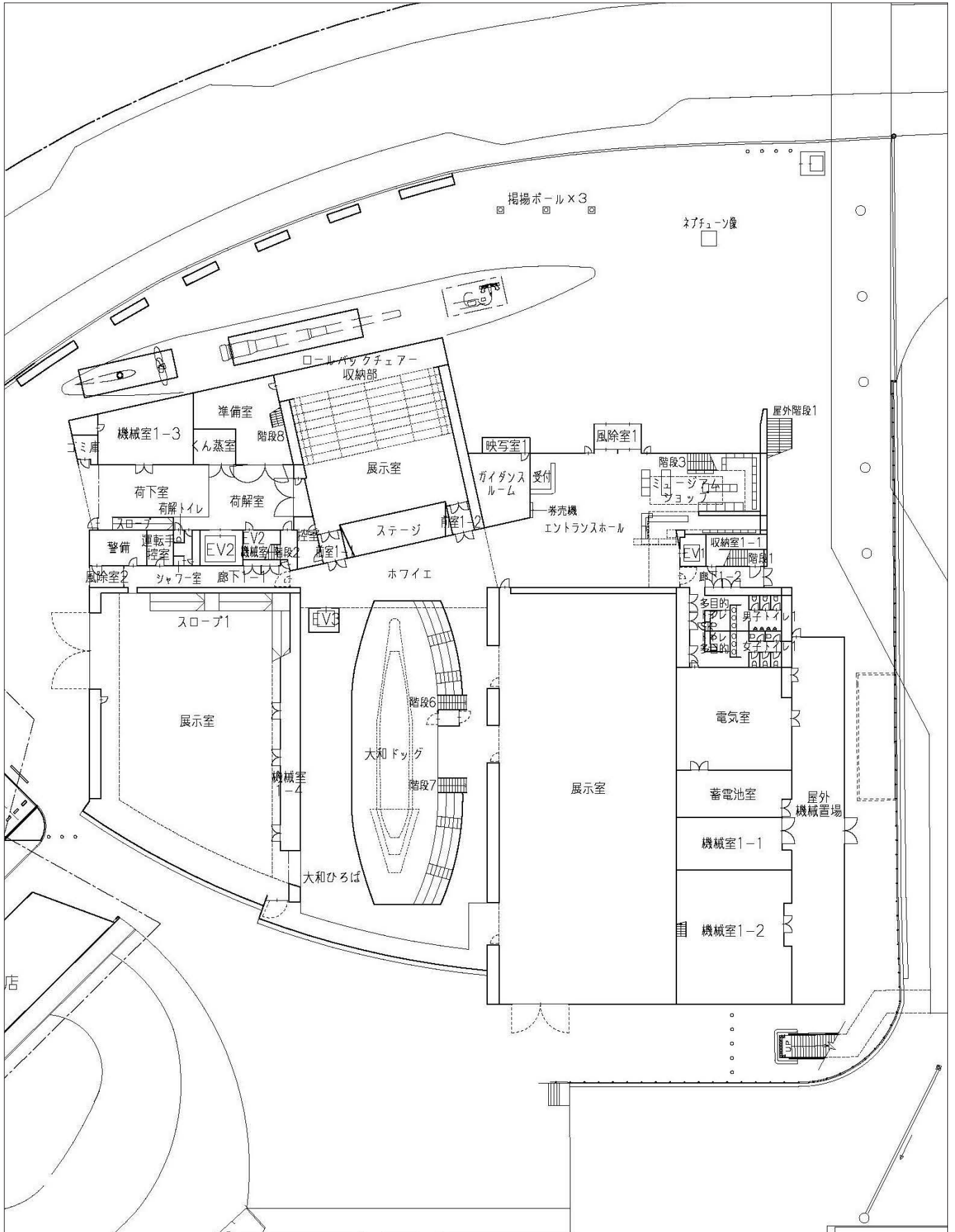
(5) 来館者推移



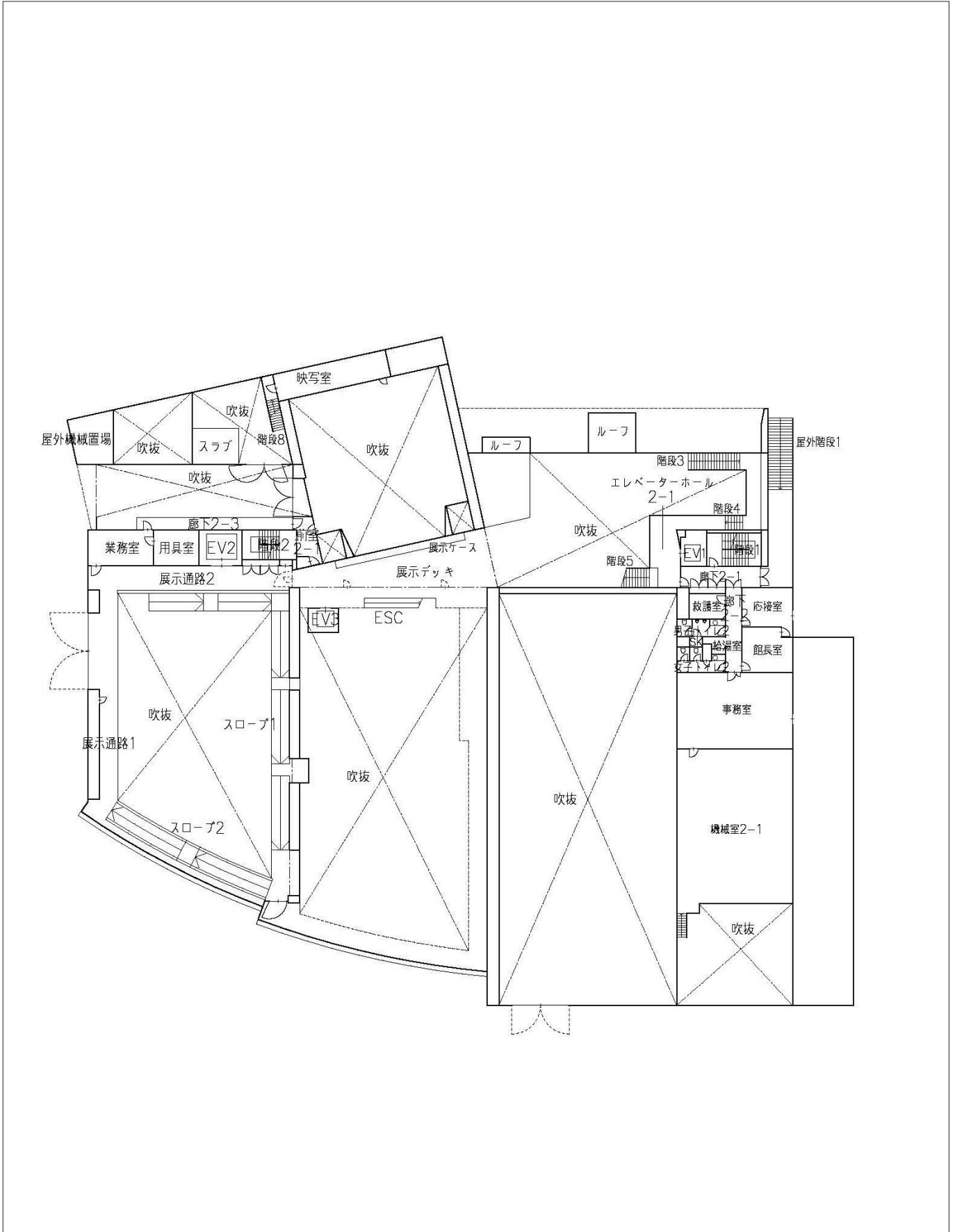
(6) 現況平面図 敷地



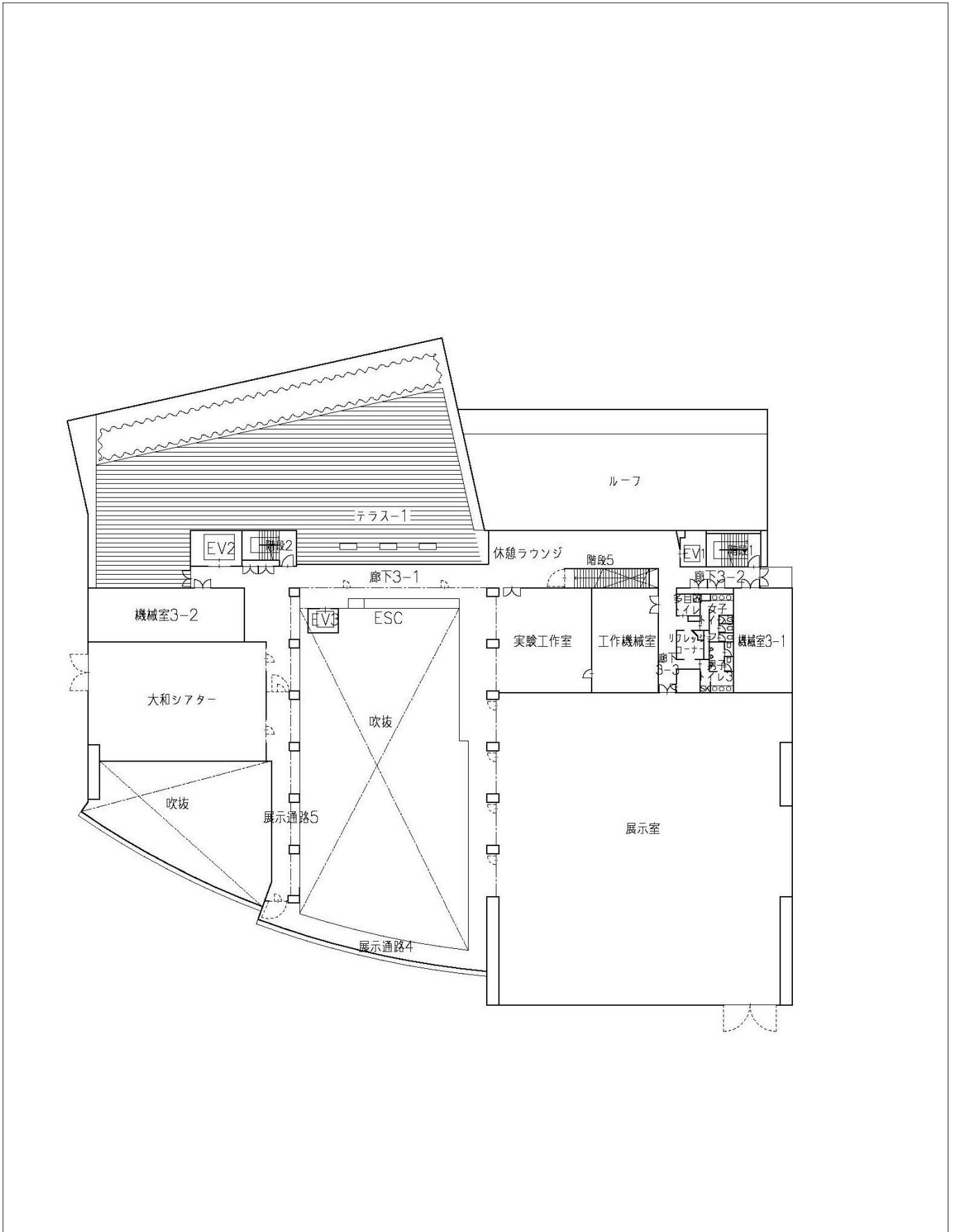
(6) 現況平面図 1階



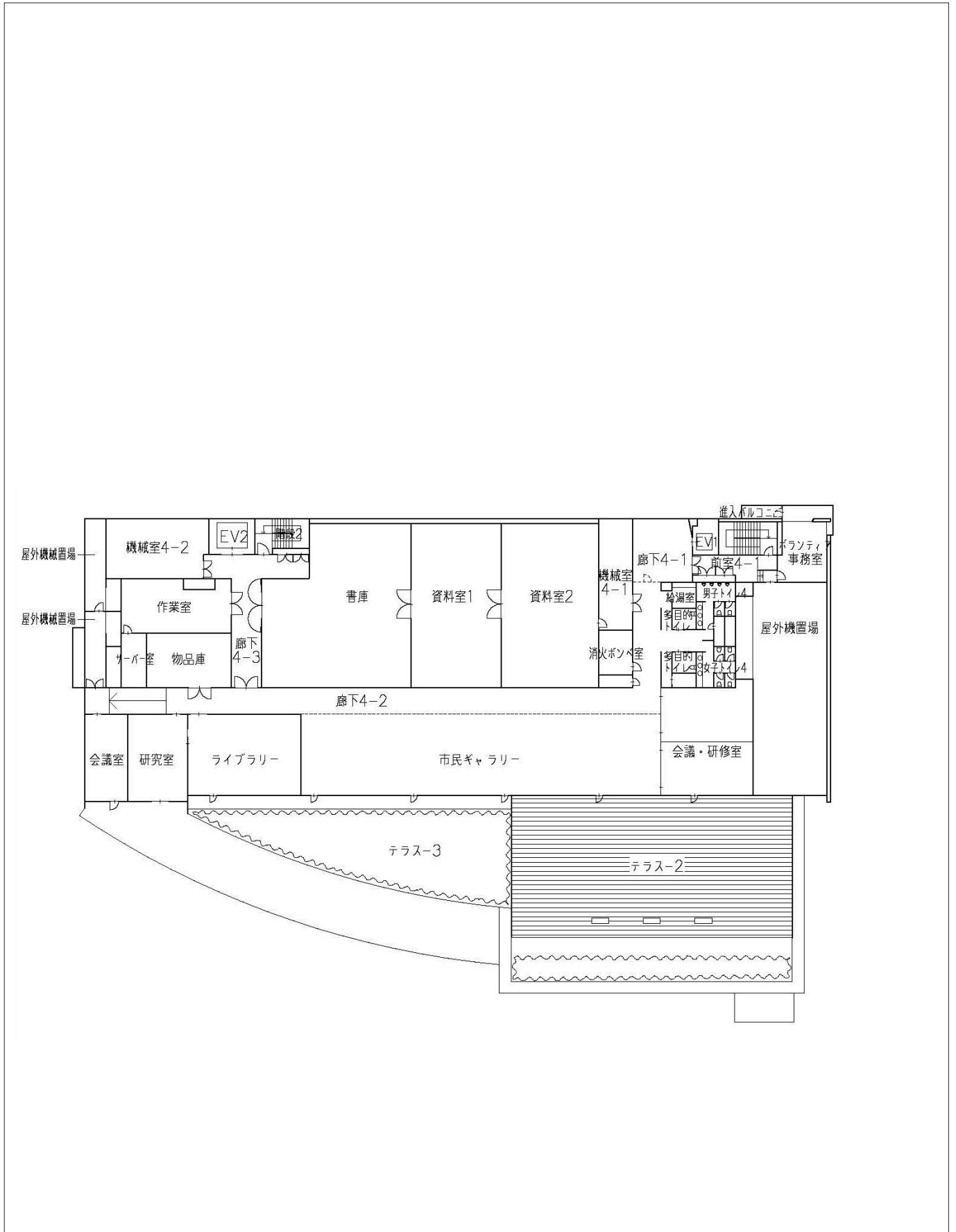
(6) 現況平面図 2階



(6) 現況平面図 3階



(6) 現況平面図 4階



2章 大和ミュージアムの課題



1 | 大和ミュージアムの施設課題

(1) エントランス周辺

- 券売機の前行列ができることが多く、エントランス機能に支障が生じている。
- ミュージアムショップの商品増加に伴い、売場がエントランス側に広がっている。また、ショップ専用のストックヤードがない。
- エントランスの空間が狭く、団体客が待機できるようなスペースがないので支障を来している。



券売機前の行列



ミュージアムショップの混雑

(2) 大和ホール

- 大和ホールは、年間を通じて企画展を実施しており、ホール機能が活用される機会が少ない。



企画展の様子



ロールバックチェアを出した様子

(3) 大和シアター

- 大和シアターは、上映コンテンツが更新されておらず、利用者が低迷している。



シアター内部の様子

(4) 収蔵環境

- 大型資料が収蔵庫に収蔵しきれず、築地倉庫屋外などにシートをかけて保存されているとともに、一般公開もできていない。
- 寄贈等により資料が増加したことで、大和ミュージアム収蔵庫の収容能力を超えたため、築地倉庫や旧大冠中学校に分散して保管している。こうした分散収蔵が調査・研究や展示の入替時に支障を来している。
- 築地町と旧大冠中学校は、空調設備等の保存環境が整っておらず、資料の保存に適していない。新たな収集資料を保管する場所がない。

収蔵施設		施設面積 (㎡)	占有面積 (㎡)	比率 (%)	収蔵点数	収蔵品
大和ミュージアム (4階)	書庫	245	284	116	約22万点	船舶艦装品、模型、 図面、紙資料等
	資料室1	158	212	134		
	資料室2	164	177	108		
築地町	築地倉庫(屋外・屋内)	-	1,944	-	約500点	大型資料、軍服、引き揚げ品等
	藤田倉庫	-	-	-		模型、書籍等
旧大冠中学校	トレーニングルーム・生徒会室	-	88	-	約6,500点	軍装品、書籍、市民生活品等



本館収蔵庫の様子



築地倉庫の様子



大型資料の収蔵状況(屋外)

1 | 大和ミュージアムの施設課題

(5) 駐車場

- 繁忙期において、大和ミュージアムの駐車場は、常に満車になっている。
- 滞留延長が短く、駐車場に入るために大和ミュージアム正面の道路に待機する車両があり、渋滞発生の原因になっている。



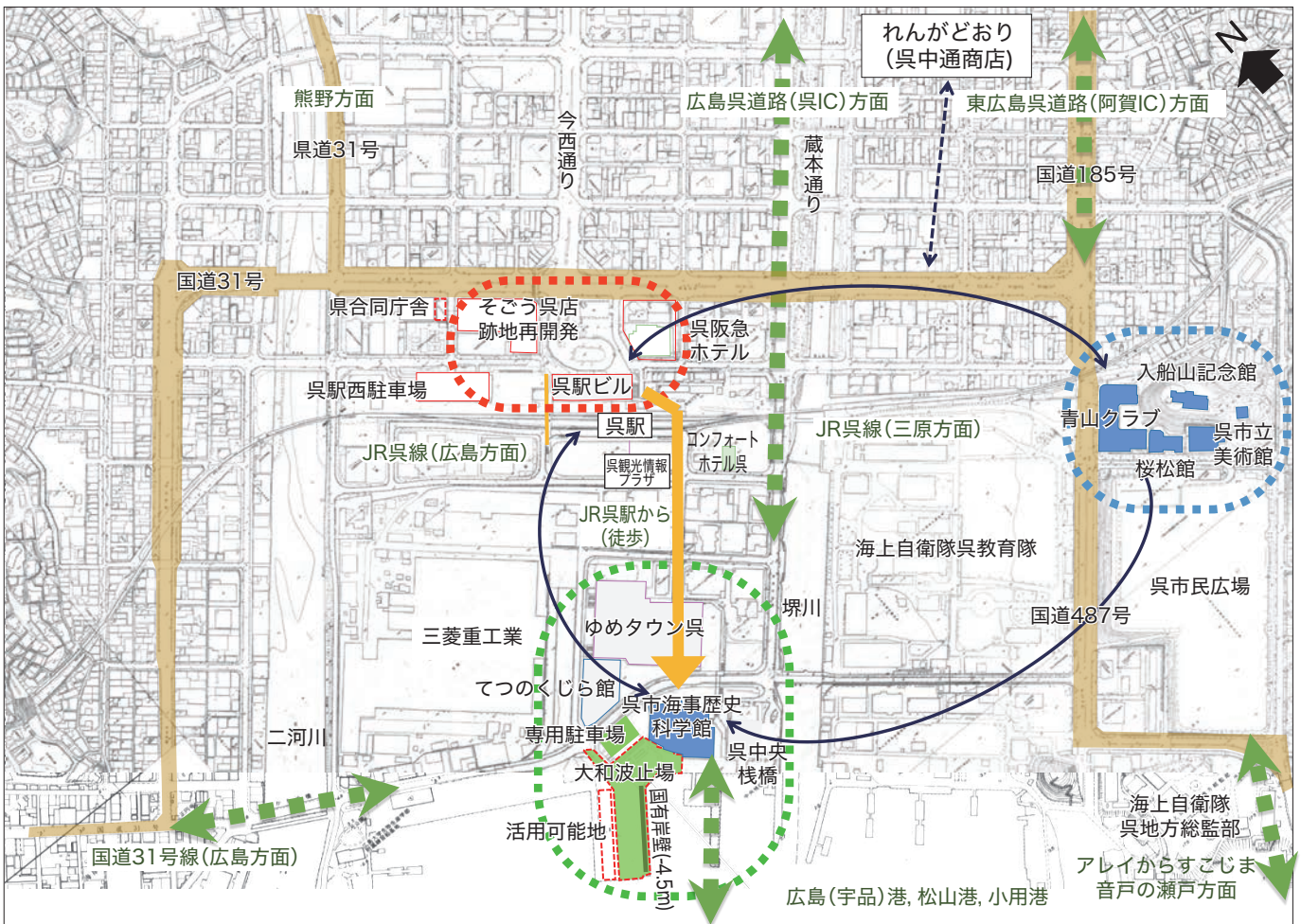
駐車場の様子



渋滞の様子

(6) 屋外

- 呉駅周辺地域整備総合開発など周辺の整備計画と整合を図る必要がある。
- 三菱重工業(旧三菱パワー)の事業再編など、周辺環境の変化が見通せない状況となっている。
- 大和波止場西側は、現在、製品置き場等として使用しているが、港湾施設の荷役についても、今後の変化が見通しにくい。
- 屋外の土地利用及び周辺整備については、港湾施設や民間企業などが関わっており、十分な調整が必要

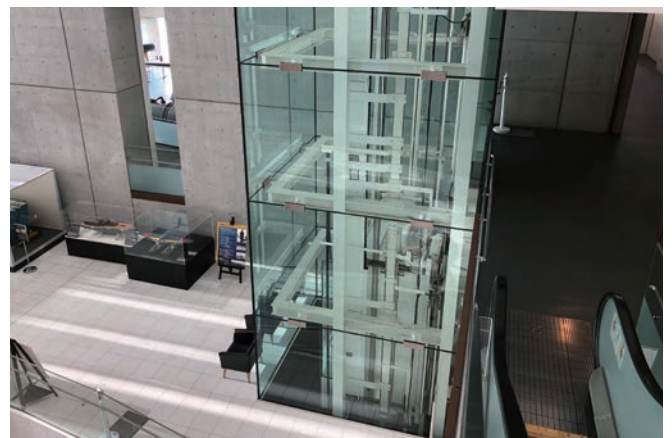


(7) 館内設備

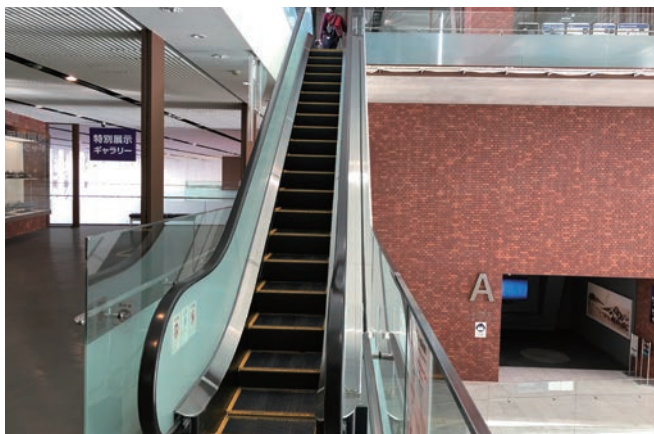
- 大和ミュージアム竣工後の建築基準法等の改正により、複数の既存不適格部分が生じている。
- 大和ミュージアムは、築15年以上経過しており、通常20年で更新する空調設備が老朽化して故障する危険性がある。また、当初想定していた来館者数(20万人)を大きく上回る来館者に対して能力が不足している。
- 空調設備以外にも電気設備、建具等も老朽化している。
- 主な機器は竣工時に設置されたものがそのまま利用されており、計画耐用年数に達するものが多く、劣化状況を踏まえた改修・更新の必要がある。
- 照明・水道設備等も含め、省エネ環境性能が低いままの設備がある。
- 想定を上回る来館者があり、アンケート結果からトイレの数や広さに関する要望が多い。和式トイレは利用向上のため洋式化する必要がある。
- ピクトグラムや視覚障害者等への対応など、不十分な部分が発生しており、近年のユニバーサルデザインに対応した環境になっていない。
- デジタル機器を用いた常設型の情報発信が不足している。
- 館内公衆Wi-Fiの通信環境が悪い箇所があるなど、デジタル環境の整備が遅れている。
- アプリケーションが複数あり、統一されていない。
- 平成20年4月から、大和ミュージアムの運営に指定管理者制度を導入した。
それ以降、大和ミュージアムの学芸部門を担う市海事歴史科学館学芸課と指定管理者の事務所を館内に配置しているが、それぞれの事務スペース等が不足する状況となっている。
- 建設当初の見込みに比べ利用者が多く、また、利用目的が多様化し、会議スペース等が不足している。



吊り天井



エレベーター



エスカレーター



建具(ハンドル破損)

(8) 災害対策

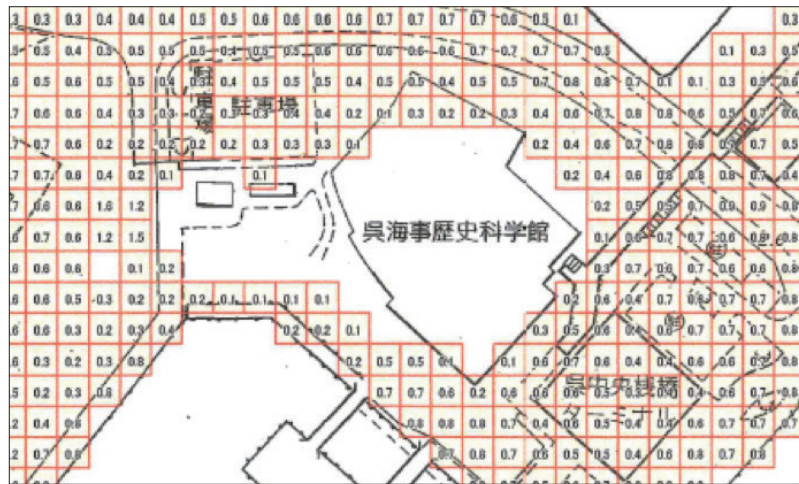
- 呉市地域防災計画(令和2年12月修正)によると、呉市に最も影響を及ぼす地震として、南海トラフ巨大地震、安芸難～伊予難～豊後水道断層を震源とする地震があげられている。
- 想定震度は、南海トラフ巨大地震で震度5強、安芸難～伊予難～豊後水道地震で震度5強～6弱程度となっている。
- 呉市のハザードマップより、当該地域は津波により0～50cm、高潮により0～50cmの浸水が想定されている。
- 海辺の施設であるにもかかわらず入口に防潮設備がない。



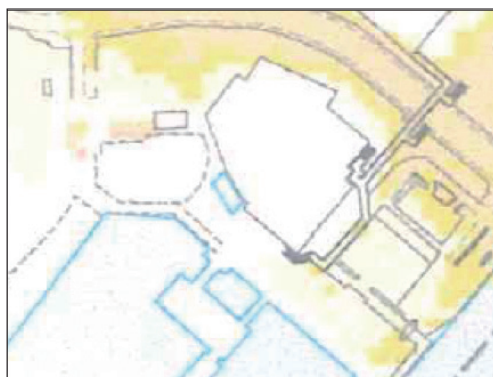
機械置場



入口(風除室)



津波災害警戒区域位置図 ※津波浸水想定の高さを表示



ハザードマップ二河川(中央地区)

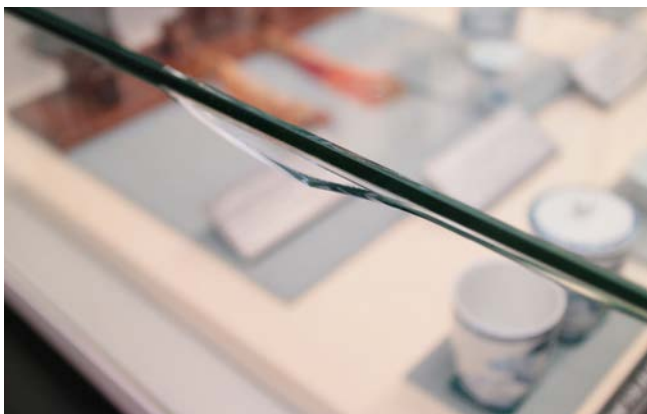
浸水深ラック	5.0～10.0m 未満の区域
	3.0～5.0m 未満の区域
	1.0～3.0m 未満の区域
	0.5～1.0m 未満の区域
	0.3～0.5m 未満の区域
	0～0.3m 未満の区域
避難所	指定避難所 (洪水災害の避難所として使用できます。)

ハザードマップ凡例

(1) 呉の歴史展示室

ア 展示環境

- 展示ケースのガラス破損やゴムの経年劣化により、ケース内部の資料の状態に影響を及ぼす可能性がある。
- 戦死者名簿等の更新頻度が高いパネルについて、毎年作り替えを行なっている。
- 音声を含む映像展示が配置上、音が重なり聞き取りづらい箇所がある。
- 映像音響機器類が老朽化しており、今後、交換品の調達も困難になっていく。
- 展示スペースが不足している。
- 近年のユニバーサルデザインに対応した環境となっていない。



ケース破損部



戦死者名簿コーナー

イ 展示内容

- 広海軍工廠・第十一航空廠に関する最新の調査研究成果が反映できていない。
- 戦後の展示内容については、昭和期の記述でとどまっており、現代の呉市の産業構造変化等を踏まえた展示内容になっていない。
- 解説文が多く、展示の流れが分かりづらい。
- 展示資料と解説のデジタル化が進んでいない。

(2) 大型資料展示室

ア 展示環境

- 新規の大型資料を公開できるだけのスペースが館内にない。



築地倉庫



築地倉庫(屋外)

イ 展示内容

- 分散して保管している大型資料には、呉海軍工廠で使用されていた工作機械や、大和・陸奥の引揚品資料があるが、展示できていない。

(3) 船をつくる技術展示室

ア 展示環境

- 展示エリアの対象年齢が限定的で全年齢層にわたっていないことから、来館者の4割程度の利用にとどまっている。
- 経年劣化等による体験装置類の故障が複数発生しているが、部品の調達が困難なため、やむを得ず休止しているものがある。

イ 展示内容

- 戦後の呉市の発展を支えてきた造船に特化してテーマを設定していたため、近年関心が高まっているテーマへの言及が不足している。広海軍工廠・第十一航空廠から生まれた航空技術や材料加工、呉の産業構造の礎、そして現代の呉のものづくりといった面での言及が必要
- 展示内容が開館当時からほぼ更新されておらず、紹介されている技術が現在では主流でないものも多い。先進技術や近年の社会課題についてのフォローも不十分



船をつくる展示室全景



休止中の体験装置

3章 大和ミュージアム リニューアル基本方針



(1) リニューアル基本方針

大和ミュージアムの施設課題、展示課題を踏まえ、リニューアルに向けた基本方針を次のとおりとする。

1 観覧環境の充実

館内導線の再検討や、ユニバーサルデザインの導入(ハード面、ソフト面[デジタル技術など])、空調やトイレの改善など、観覧環境の充実を図る。

2 収蔵・展示機能の充実

公開型大型資料収蔵庫の整備や周辺施設との機能分担など、収蔵・展示機能の充実を図る。

3 デジタル技術の活用

国が目指すSociety5.0の社会を見据え、最新のデジタル技術を活用する。資料のデジタルアーカイブスを充実させ国内外に公開するとともに、館内案内や展示資料解説の多言語化、デジタルサイネージ、AR等の整備などでユニバーサルデザインへの対応を図る。

4 呉の歴史から産業技術・科学技術の素晴らしさとともに平和の大切さを伝える

日本の近代化を支えた呉のものづくりの歴史と、その礎となった科学技術の素晴らしさを伝えるとともに、戦争の悲惨さ、平和の大切さを伝える。

5 社会的・地域的課題に対応する博物館

地域のまちづくりや産業活性化、地球温暖化対策(カーボンニュートラル等)やSDGsなど、社会的・地域的課題に対応するとともに、館内のこうした取組を公表するなど、発展に寄与する博物館を目指す。

(2) 大和ミュージアムの新しい基本方針・方向性

設立時の基本方針・方向性をリニューアルに合わせて変更します。

基本方針

- 1 歴史的見地** 造船技術等を通し、呉と日本近代化の歴史を後世に伝えます。
- 2 学術的見地** 呉が過去から深くかかわってきた科学技術を新しい時代に活かします。
- 3 教育的見地** 市内外や世界各地からの来館者が学習するための環境整備を行います。平和の大切さを未来に伝えます。
- 4 まちづくり的見地** 周辺施設と調和を図り、人々が集う施設とします。

方向性

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1 地域と一体となった博物館 | 4 市民や来館者の自発的な学習を支援する博物館 |
| 2 呉と日本近代化の歴史がわかる博物館 | 5 人が集まり情報を世界に発信する博物館 |
| 3 科学技術の素晴らしさ・科学の原理のわかる博物館 | 6 楽しむ場となる博物館 |

4章 大和ミュージアムの改修(リニューアル)



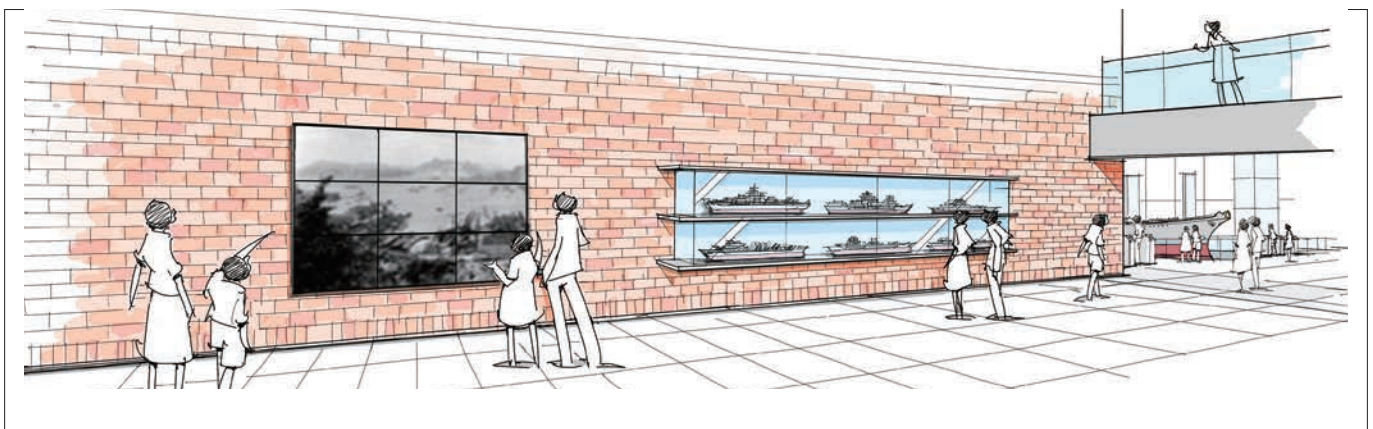
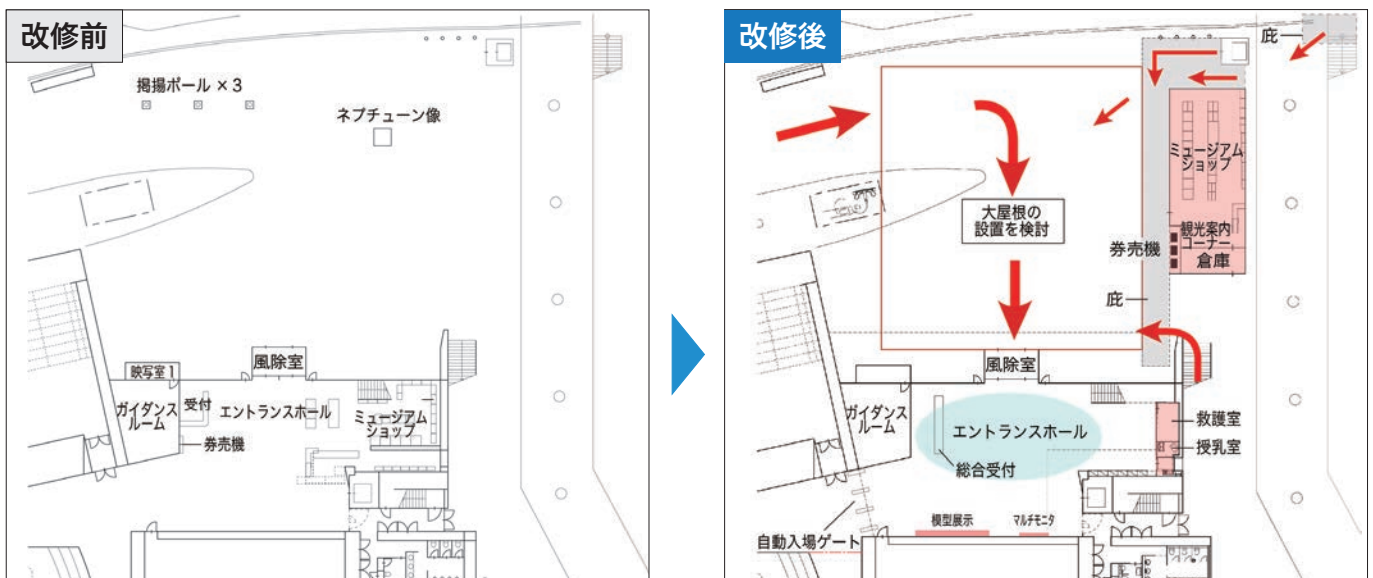
1 | 各エリアの施設改修案

(1) エントランス周辺

博物館にふさわしいエントランスとなるよう機能の再編を行い、できるだけ広いスペースを確保します。

対応方針

- ミュージアムショップ及び券売機を本館屋外に新設する。また、ショップ内には観光案内を行う案内コーナーを併設する。
- 隣接する中央棧橋ターミナル2階の待合スペースに、教育旅行向けのガイダンススペース及び一般団体向けの待合スペースを確保する。
- 授乳室と救護室を新設し、利便性を向上させる。
- 来館者の整理等に役立つと考え、入退場自動ゲートを整備する方向で進める。
- 来館者の利便性を向上させるため、エントランス前に大屋根の設置を建築基準法等の適応、整備費用などを勘案しながら引き続き検討する。



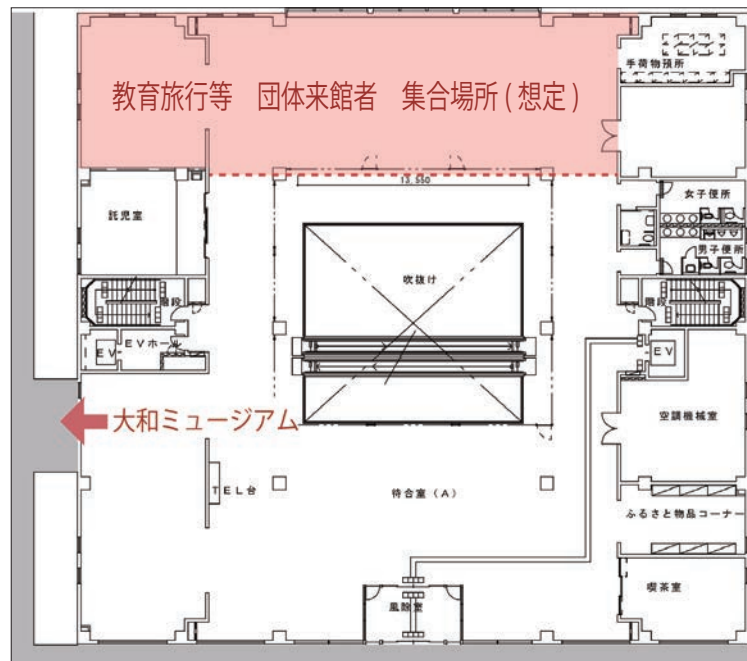
特記事項

- インターネット予約や発券システムやショップでのキャッシュレス対応について検討する。



ミュージアムショップイメージ図

中央棧橋ターミナル



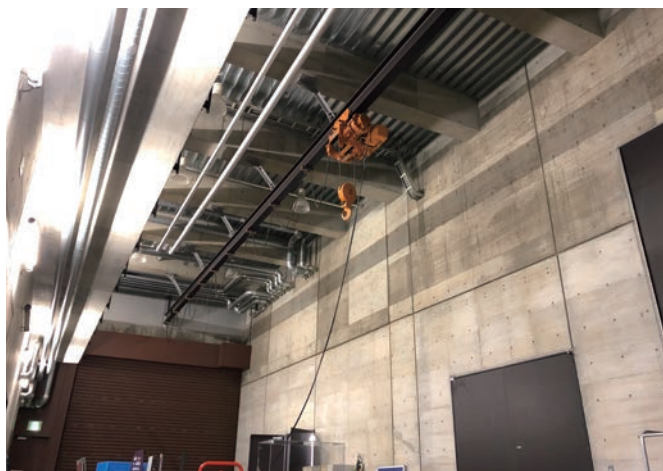
中央棧橋ターミナル2F活用エリア

(2) 大和ホール

大和ホールは引き続き企画展にも使用します。

対応方針

- 大和ホールは元々企画展示室として設計されているため、搬入口、ホイスト等、企画展示室としての機能を備えている。
- 企画展示室としてのスペックは大和ホールにしかないため、これまでどおり企画展示室としても利用する。



ホイスト



バックエリア

スペック

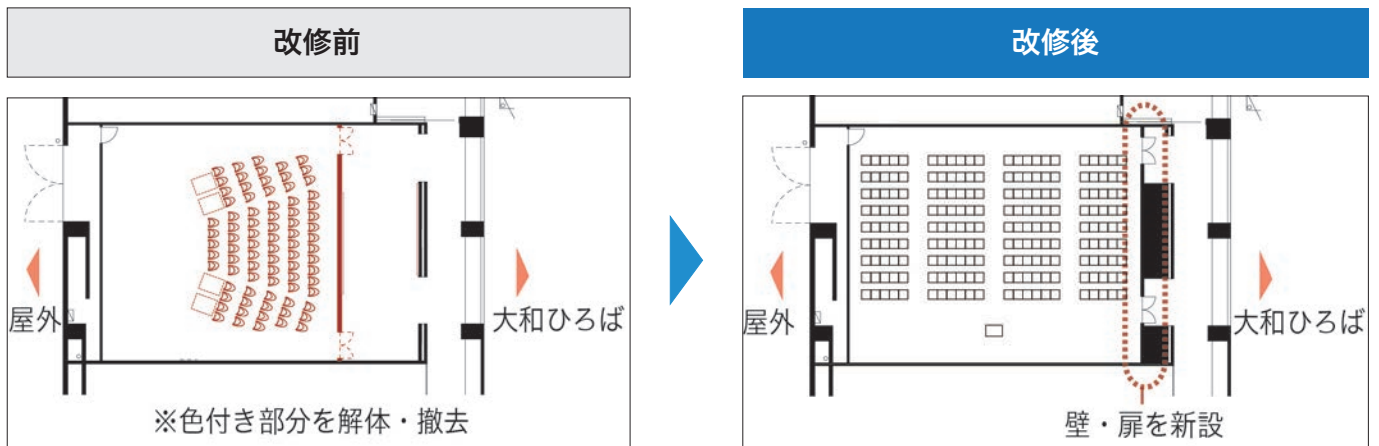
- 搬入口、ホイストクレーン、ロールバックチェアー、移動ステージ
- ホール扉 耐火性能

(3) 大和シアター

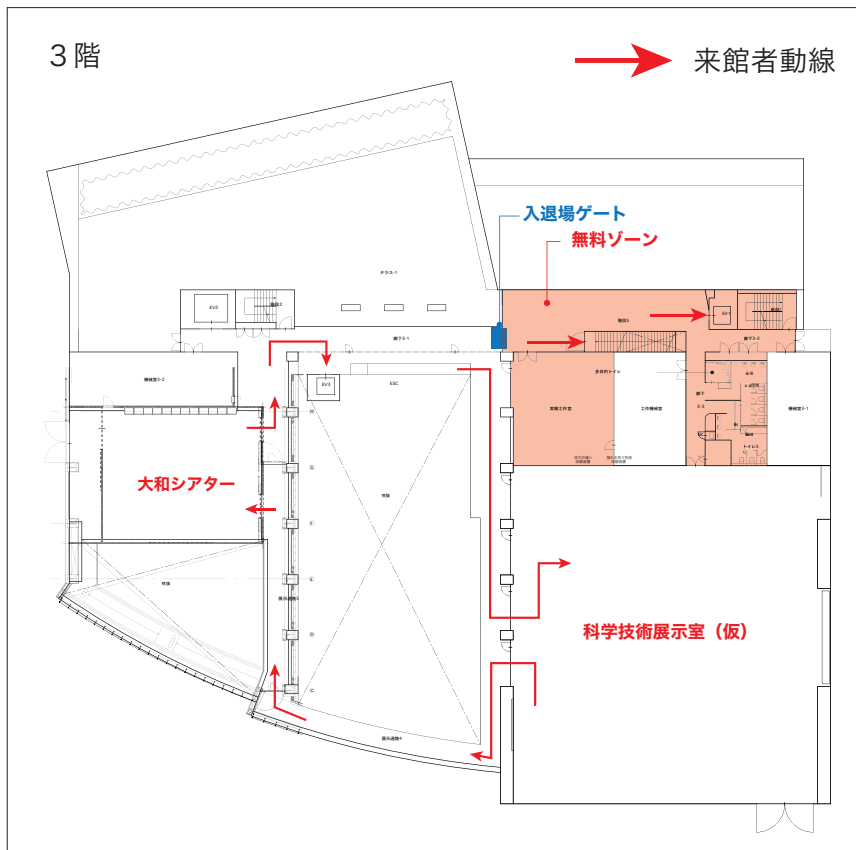
大和シアターを汎用性の高い多目的スペースに改修します。

対応方針

- 大和シアターは、前室やスクリーン、固定椅子を撤去し、座席数を200席に増やしてホールとして活用する。
- 常設展示を補うミニ企画展や小規模な講演会などに活用するとともに、ユニークベニュー等にも活用する。



来館者動線及び入退場ゲート位置



参考：大和シアタースペック

- 搬入用エレベータ
：幅3.0m×奥行き2.0m
×高さ2.3m
- 西側外扉
：地上から8m

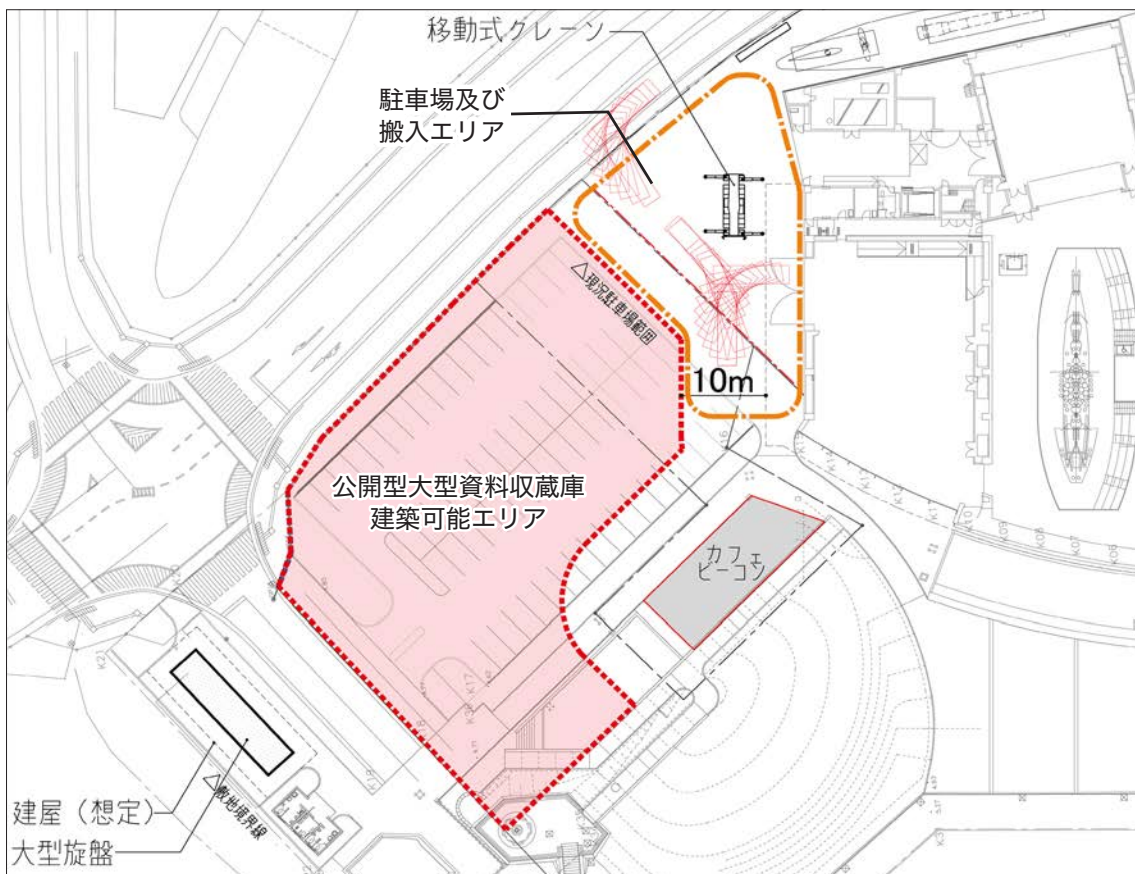
(4) 収蔵機能

適切な収蔵環境の確保と公開型大型資料収蔵庫を整備します。

ア 大型資料

対応方針

- 大型資料の公開は、大和ミュージアム敷地内が望ましい。また大型資料は容易に移動できないので、収蔵機能も一体的に整備することが望まれる。
- 整備場所は、現駐車場とする。
- 大型資料収蔵庫として必要な保存環境は次のとおりである。
 - 搬入路、搬入口、搬入用エレベーター
 - 防火システム 自動火災報知器設備、消火装置屋内消火栓及び新ガス系消火設備
 - 床スラブの荷重設計 1200kg/m²以上
 - 収蔵庫扉 耐火性能・防盜性能



特記事項

■ ビーコンの取扱い

公開型収蔵庫は、今後の収蔵資料の増加も考慮し、余裕を持った規模とする。そのため、必要に応じて観光振興棟(ビーコン)の敷地も取り込んで整備する。なお、飲食機能はその必要性を整理するとともに、中央棧橋ターミナルを含め、エリア全体で整備について検討する。

1 | 各エリアの施設改修案

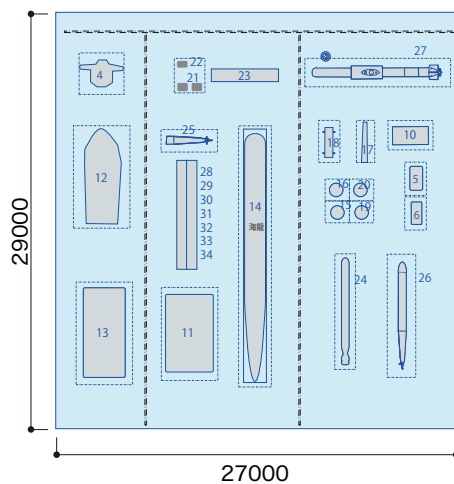
公開型大型資料収蔵庫(新設)

公開型大型資料収蔵庫

- 築地倉庫に保管中の大型資料を保管するとともに、一般公開への対応もできる収蔵庫とする。
- 収蔵資料のレイアウトのシミュレーションを行ったところ、最低750㎡必要である。

収蔵資料スペース: 約750㎡

レイアウトイメージ



資料

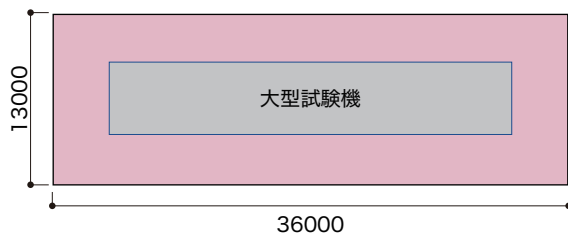
10年式12センチ高角砲	プロペラ型とり
戦艦「陸奥」副砲	明治期の機雷
96式25ミリ機関砲(3連装)	明治期の機雷
「銀河」発動機・プロペラ	マリンレーダー(2個)
羅針儀	操舵機一式
操舵機	海防艦「択捉」模型1/20
戦艦「陸奥」アーマー	魚雷
戦艦「大和」ドック石	九三式魚雷尾部
呉海軍工廠 四門柱	二式魚雷
試験水槽(平賀水槽)	「回天」十型
200トンクレーン部材	ジャイロスコープ
正面旋盤	ジャイロスコープ
100トンクレーン部材	燃焼室
「海龍」内部装置機器	深度機(2型)
93式改三機雷	深度機(標準型)
93式改三機雷	深度機
戦艦「陸奥」外とう砲	起動発停機

大型試験機について

大型試験機(28m×5m)を屋内設置する場合は、周囲に4m程度のスペースを設けたところ、最低、450㎡必要である。

大型試験機収蔵スペース: 約450㎡

レイアウトイメージ



イ その他の資料(大型資料以外)

対応方針

- アーカイブスを併設した収蔵庫を、公開型大型資料収蔵庫と一体的に整備する。
- 大和ミュージアムに近い場所で、可能な限り面積を確保する。

収蔵庫として必要な設備及び保存環境

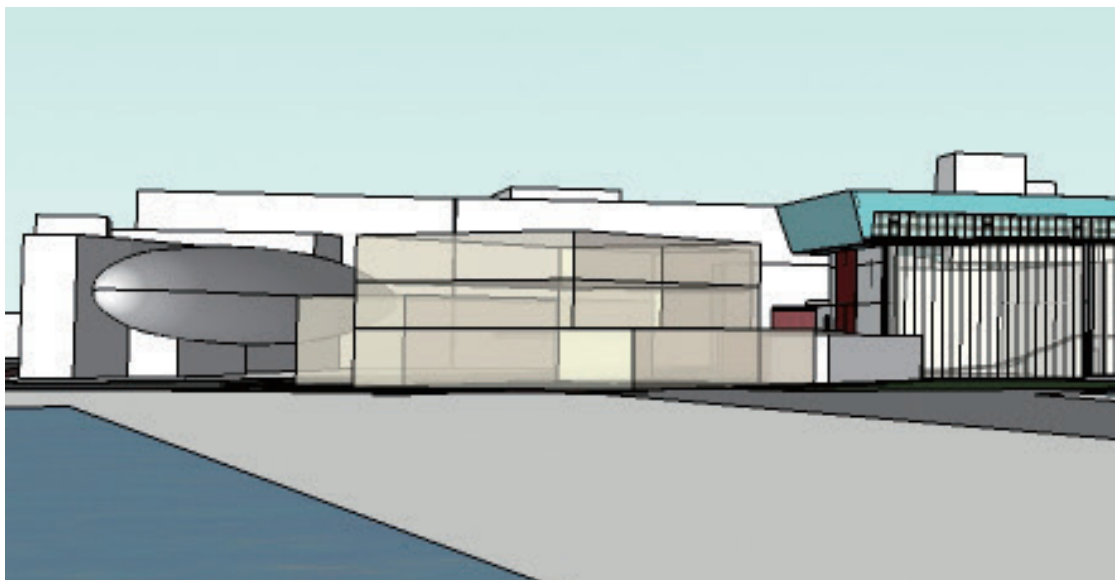
- 搬入路、搬入口、搬入用エレベーター
- 床スラブの荷重設計 800kg/m²以上
- 収蔵庫扉 耐火性能・防盜性能
- 収蔵庫内装 調湿パネル、化学物質吸着シート
- 必要面積 約1,250m²
(書籍 100m²、模型 100m²、引き揚げ品 100m²、収蔵庫(非公開)、作業室ほか)
- 全室空調完備
- 収蔵庫(非公開)は、温度20~25°C、湿度50~55%を維持
※停電時は非常用発電機で対応する。(燃料保持期間:7日間、オイルタンク・燃料小出槽を設置、防水型ポンプの採用)
- 防火システム 自動火災報知器設備、消火装置屋内消火栓及び新ガス系消火設備
- 前室を設け、収蔵資料ごとに部屋を分離

特記事項

- 主な収蔵予定資料 模型資料(海防艦「択捉」、戦艦「伊勢」等、約160点)
／図書資料(『造船』『舵』等、約6,000点)／引揚品等資料(大和・陸奥引揚品等)

景観シミュレーション

海側からの景観シミュレーション



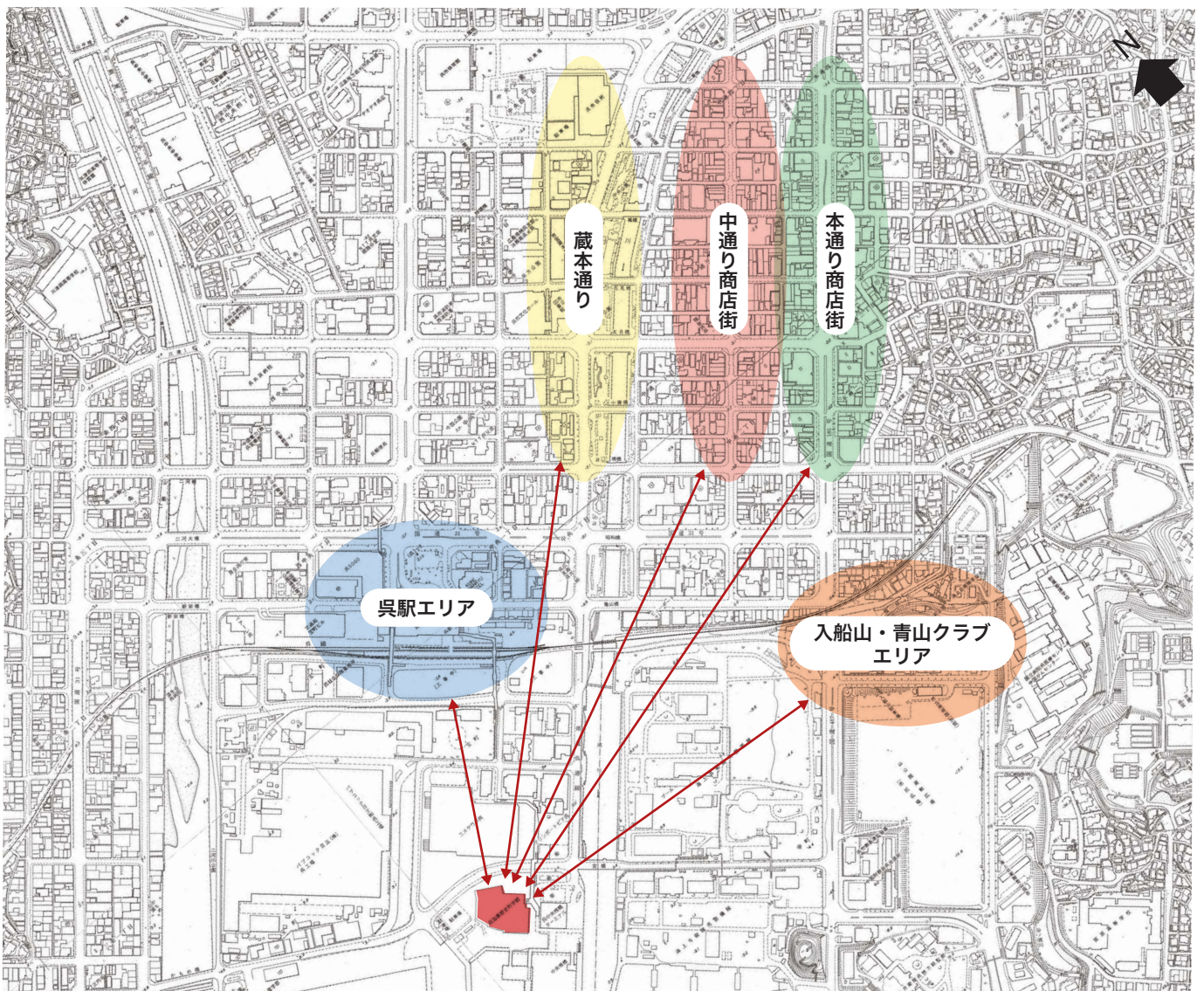
(5) 駐車場

大和ミュージアムだけでなく周辺エリアとの連携で渋滞を緩和するとともに、大和ミュージアム周辺エリアに法的に必要な駐車台数を確保します。

ア 渋滞の緩和

対応方針

- 現在、駐車場台数は不足しているが、敷地内には制約上十分な台数を整備できないため、大和ミュージアム周辺の既存駐車場の活用をはじめ、市内回遊性の向上の観点から、青山クラブ周辺整備や呉駅周辺地域総合開発などとも調整し、来館者へ駐車場を提供する。また呉駅周辺地域総合開発と連携し、グリーンスローモビリティや自動運転車などの次世代モビリティの活用を図る。
- 大和ミュージアムや呉駅周辺だけでなく、更に広い範囲に位置する駐車場からのアクセスも他の計画等を踏まえて調整する。併せて、料金体制を見直し、インセンティブの付与を検討するなど、混雑回避のための対応を図る。



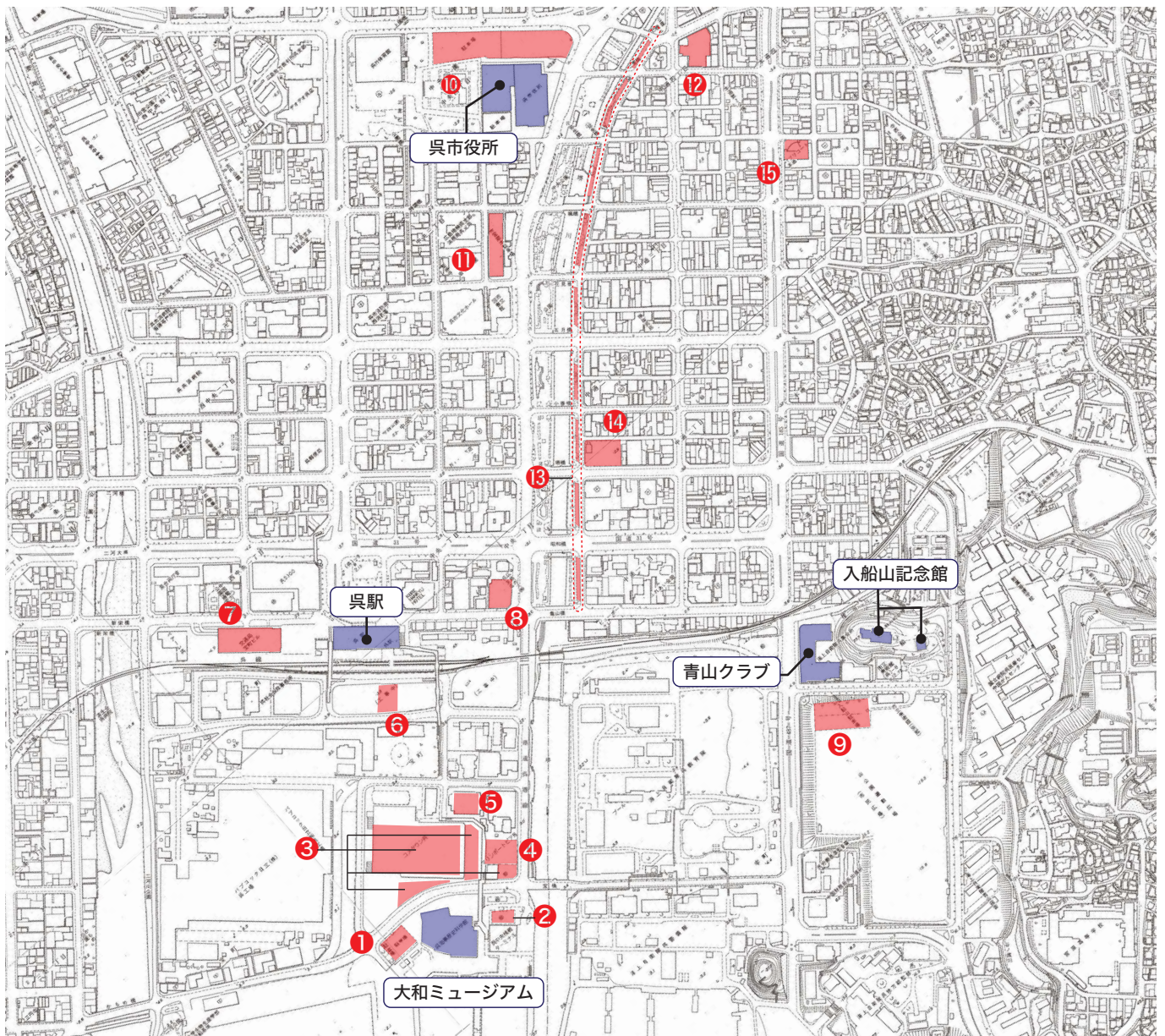
1 | 各エリアの施設改修案

■ 主な駐車場

No	名称	料金 (1時間あたり)	台数
大和ミュージアム、呉駅エリア			
①	大和ミュージアム駐車場	100	65
②	中央棧橋ターミナル駐車場	100	27
③	ゆめタウン呉駐車場	200	1500
④	折本ビル立体駐車場	200	220
⑤	ポートピア呉立体駐車場	300	420
⑥	レクレ駐車場	300	300
⑦	呉駅西駐車場	200	481
⑧	呉駅前東駐車場	200	312
入船山・青山クラブエリア			
⑨	入船山公園駐車場	100	122

No	名称	料金 (1時間あたり)	台数
蔵本通りエリア			
⑩	呉市役所駐車場	200	180
⑪	蔵本駐車場	200	355
中通りエリア			
⑫	GINZAパーキング	200	70
⑬	中通パーキング	200	142
⑭	アトム駐車場	200	85
本通りエリア			
⑮	本通駐車場	200	124

料金は日中の1時間あたりの料金を記載。30分毎計上の駐車場は1時間に換算して記載



主な駐車場分布状況

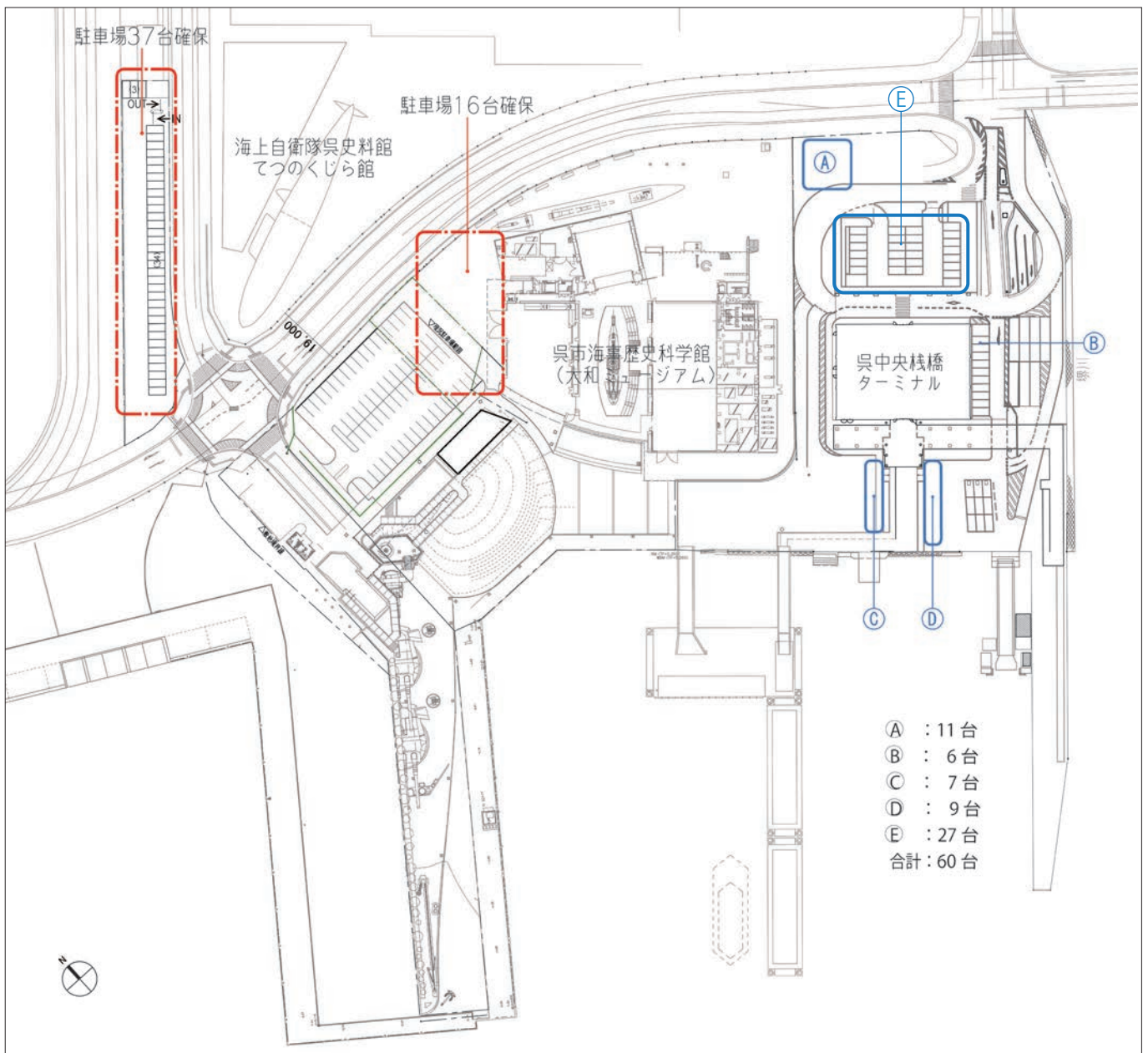
イ 収蔵施設新設に伴う新たな整備場所

検討内容

- 「呉市建築物における駐車施設の附置等に関する条例」第3条により、公開型大型資料収蔵庫を整備した場合、113台の駐車台数が必要になるが、中央棧橋駐車場の台数を控除すると、53台の設置が新たに必要となる。
- 同条例7条により、敷地からおおむね200m以内に整備することが求められる。

対応方針

- 現在バス乗降場として使用している国有地に37台の駐車場を整備し、収蔵庫棟と大和ミュージアムとの間に確保可能な16台と合わせて、53台を暫定的に確保する。
- 呉駅周辺地域総合開発や三菱重工業の事業再編などの状況を見ながら駐車場整備を検討する。



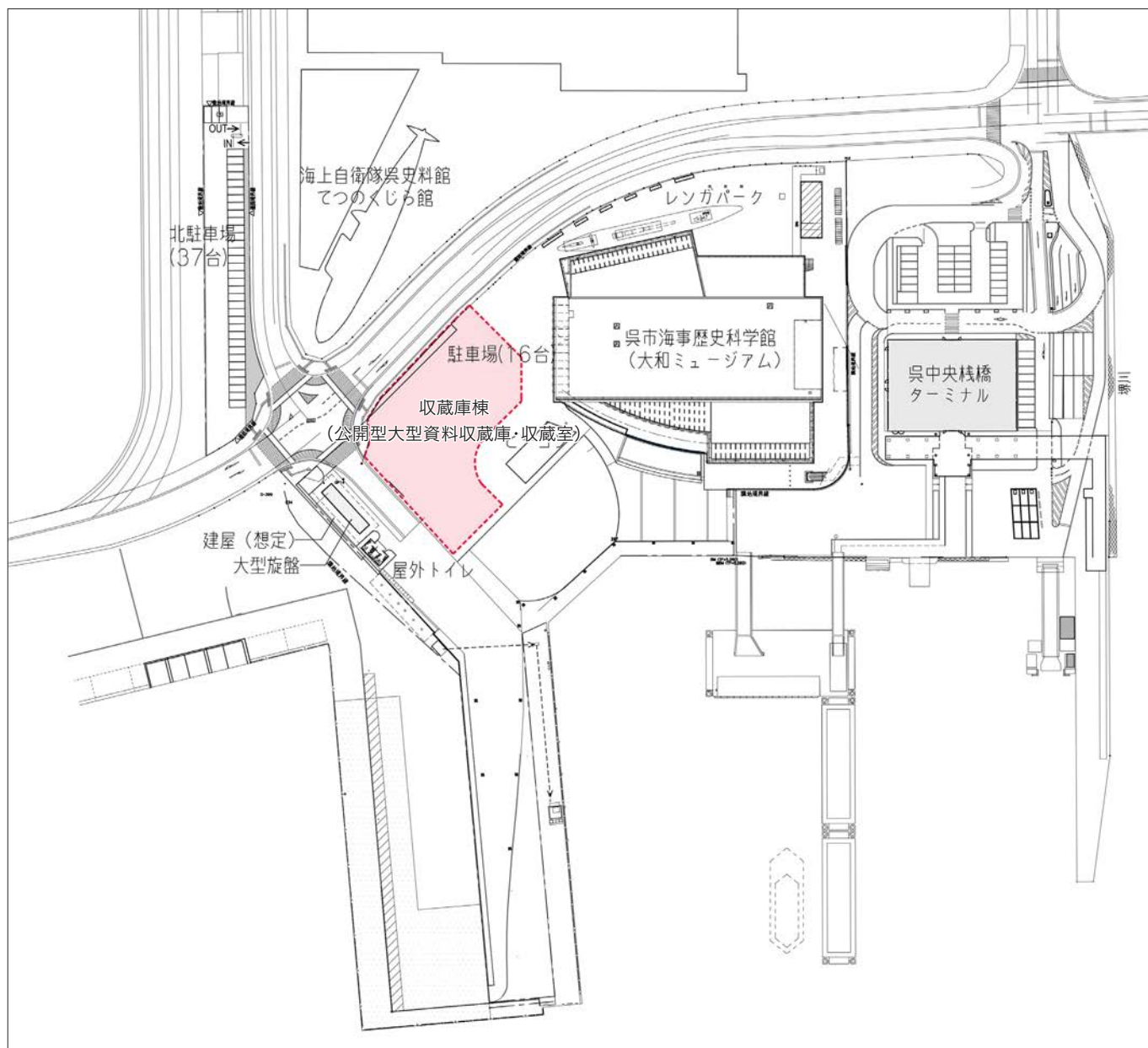
※関係法令等について関係機関と協議をする必要があり、それに基づいて修正となる部分がある。

(6) 屋外

周辺環境の今後の変化に合わせて検討を継続します。

対応方針

- 屋外については今後の周辺の変化の影響がないもののみ整備を行い、それ以外は現状維持を含めた暫定整備とし、全体像が明らかになるのに合わせて対応方針を決定する。
- 大和波止場東側の1/4大和の取り扱いは当面現状維持のままとし、周辺を含めた整備方針を確認しながら整理する。



※関係法令等について関係機関と協議をする必要があり、それに基づいて修正となる部分がある。

(7) 建築・設備等

来館者の安全性や快適性確保の観点から、既存不適格部分の解消や不足又は老朽化している設備の改修、災害対策を講じます。

ア 既存不適格部分

対応方針

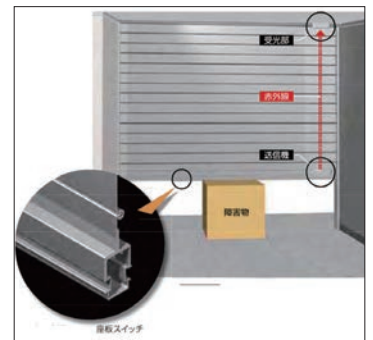
(ア) 特定天井

特定天井(高さ6mを超え200㎡を超える部分を含み、重量が2kg/㎡を超える吊り天井)の脱落対策を講じる。



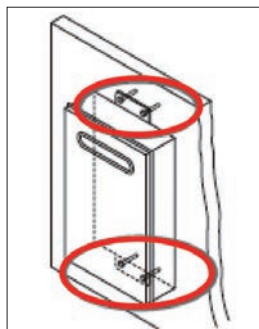
(イ) 防火シャッター

吹抜け部に面するシャッター、階段等の防火設備(特定防火設備を含む)に安全装置を設ける。



(ウ) 電気温水器

給湯室等に設置する電気温水器は大臣が定める技術基準に従って、床・壁に固定する。



(エ) エレベーター

エレベーター2号機は国が定める技術基準に従って、駆動装置の転倒・移動に対する措置、戸開走行保護装置の設置、昇降路・ピット等の耐震対策を施す。また、1・3号機は上記に加え、釣合いおもり・ガイドレール等の耐震対策を行う。

(オ) エスカレーター

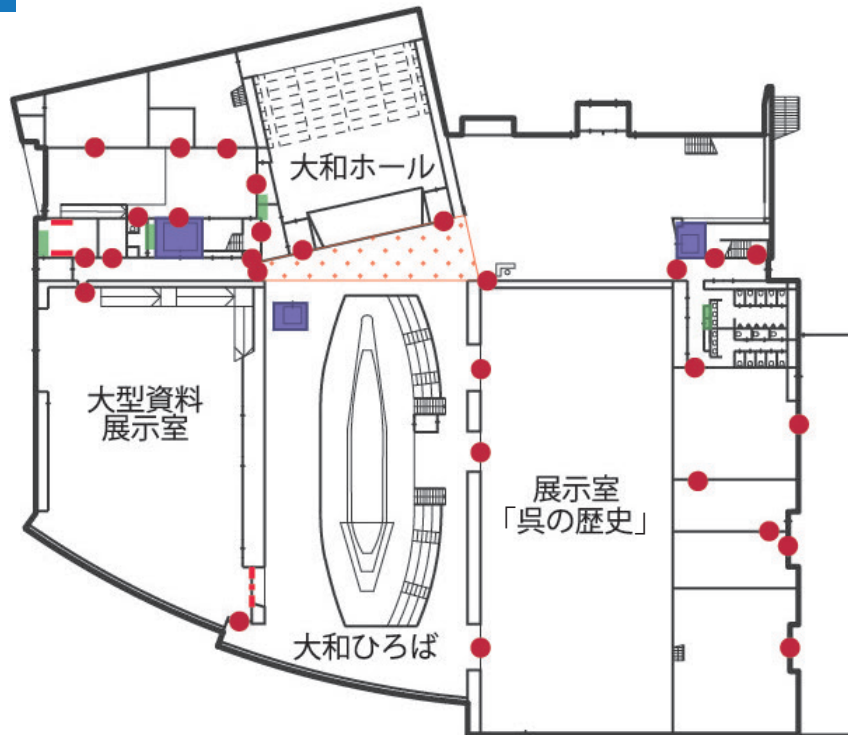
エスカレーターは、大臣が定める技術基準に従って、地震その他の振動により脱落しないように、基準に基づく改修を施す。









1 | 各エリアの施設改修案

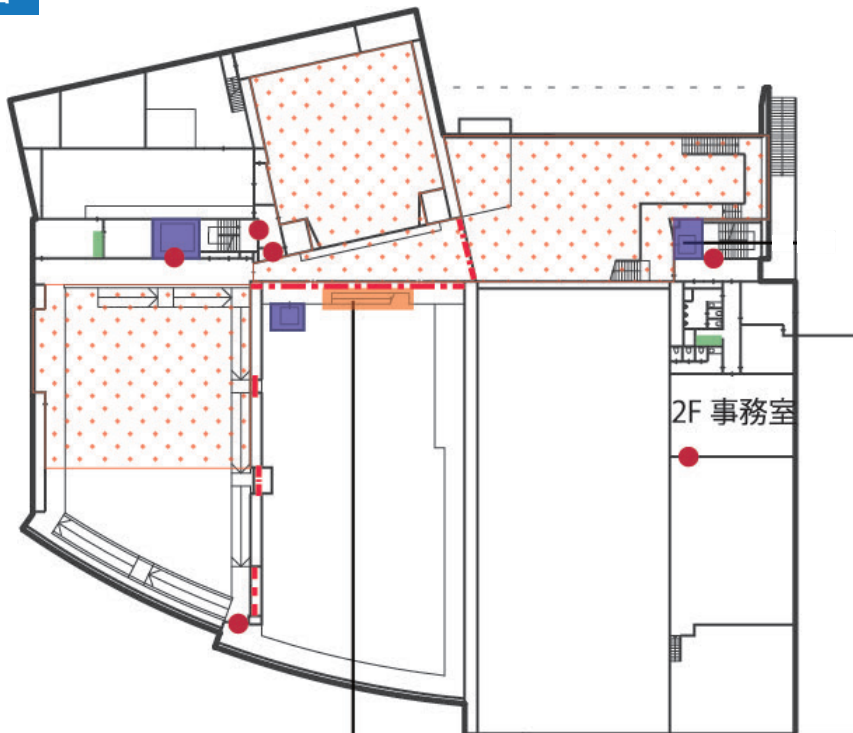
既存不適格解消対象箇所

1階



-  : (ア) 特定天井の改修範囲
-  : (イ) シャッター (特定防火設備)
-  : 防火戸 (防火設備・特定防火設備)
-  : (ウ) 給湯器
-  : (エ) エレベーター
-  : (オ) エスカレーター

2階

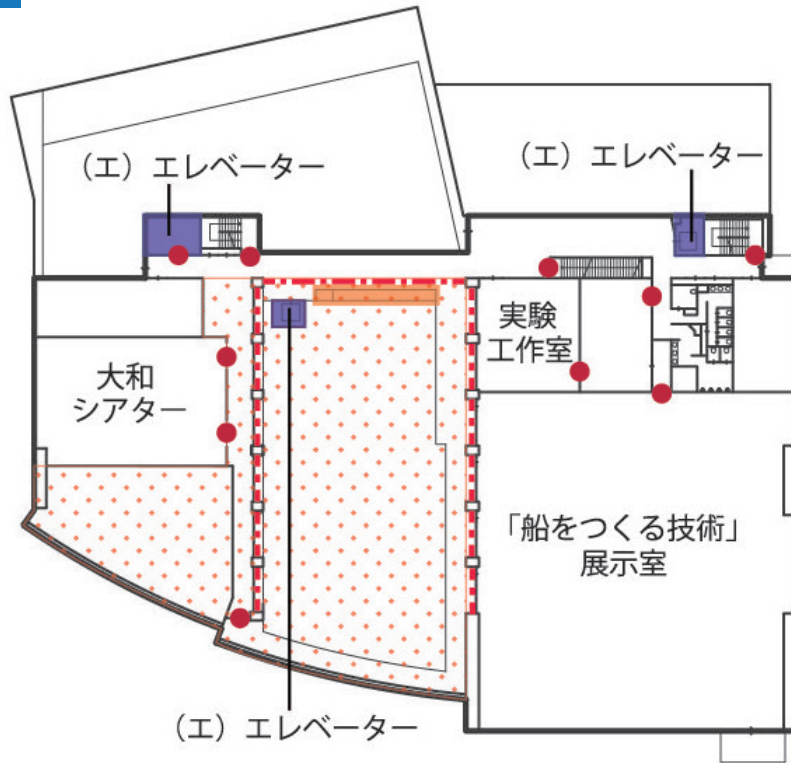








(オ) エスカレーター

1 | 各エリアの施設改修案

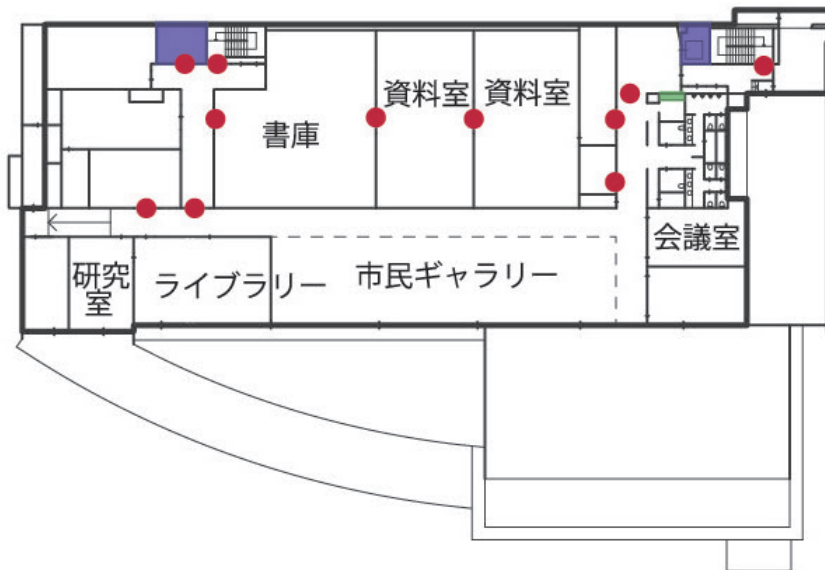
既存不適格解消対象箇所

3階



-  : (ア) 特定天井の改修範囲
-  : (イ) シャッター (特定防火設備)
-  : 防火戸 (防火設備・特定防火設備)
-  : (ウ) 給湯器
-  : (エ) エレベーター
-  : (オ) エスカレーター

4階



イ 空調設備

対応方針

- 空調換気設備改修
 - 既に改修した部分以外の空調改修を行う。
 - エントランスホール並びに1階展示室の換気及び空調能力を増強し、混雑時にも求められる温熱環境/空気質環境を確実に保持できる計画とする。
 - 救護室、授乳室新設に伴い空調換気設備を設置する。
 - 物理的劣化、社会的劣化の側面から熱源及び空調換気機器を全面的に更新又は改修する。
 - 環境配慮、省エネルギー及びBCPの側面でこれからの大和ミュージアムにより見合った設備システムの再構築を可能な範囲で行う。
- 空調熱源改修
 - 既存の空調熱源システムは、電気とガスのベストミックスに加え、年間を通じた冷熱/温熱同時要求に対して、冷熱蓄熱槽、温熱蓄熱槽及び熱回収型ヒートポンプチャラー(冷暖同時とりだし)を組み合わせた高効率システムとなっている。
 - 既存システムを踏襲し、現行の最高効率機器に更新することを改修の原則とする。
 - 基本設計時の検討課題は以下。
 - ① 電気熱源とガス熱源の容量バランスの再検証
 - ② 潜熱蓄熱から顕熱蓄熱への変更の可能性検討(蓄熱槽の容量が増大)
 - ③ 熱源の最適運転制御(その状況下において最も効率の高い熱源運転パターンを選択)、変流量制御方法など空調熱源制御の見直し 他

ウ その他老朽設備等

対応方針

- 劣化状況として、「物理的劣化」・「社会的劣化」・「不具合」の状況を踏まえた、設備更新が必要である。
- 主な機器は、竣工年に設置されたものがそのまま利用されており、計画耐用年数に達するものが多く、改修や更新が必要となる。
- 受変電設備・非常用発電機等の計画耐用年数が長いものは、内部の不具合を確認し、一部機器の更新にとどめる。
- 公開型大型資料収蔵庫及び新設される駐車場も含めた新たな導線や施設環境においてもユニバーサルデザインに留意する。

1 | 各エリアの施設改修案

エ トイレ

検討内容

- 建物用途として博物館は算定式はないため、利用時間に片寄りの少ない任意利用型となる商業施設の一般的なサービスレベルでの基準を準用する。

1階及び3階の現状数と適正数

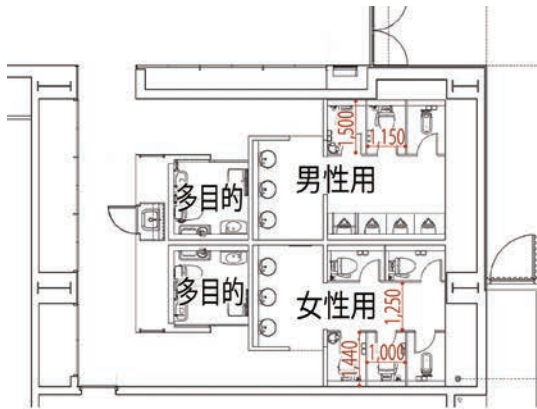
	一時間当たりの 利用人数想定 男女共	衛生器具個数				
		男 性			女 性	
		手洗い	小	大	手洗い	大
1階	262人	現状: 3 適正: 2	現状: 4 適正: 3	現状: 3(内1和式) 適正: 3	現状: 3 適正: 3	現状: 5(内1和式) 適正: 5
3階	195人	現状: 3 適正: 2	現状: 3 適正: 3	現状: 2 適正: 3	現状: 3 適正: 3	現状: 3 適正: 4

対応方針

- 待ち時間の短縮のため、算定上、適正個数を満たしている場合でも、現状の器具数を確保することを前提とし、衛生器具の追加、空間・機能の拡張を図る。
- 和式便器は洋式便器に変更し、利用頻度の向上を図る。
- トイレブースはチャイルドシートやフィッティングボードが設置可能なサイズで確保し、サービスの向上が図れる計画とする。
- トイレのブース間は、杖等の使用者との擦れ違いに配慮した間隔を確保する。
- 1階多目的トイレは、より設備の充実を図った1か所とし、トイレブースの増設・通路の拡張を行う。
- 3階トイレはリフレッシュコーナーを取りやめ、トイレブースの増設・通路の拡張を行う。

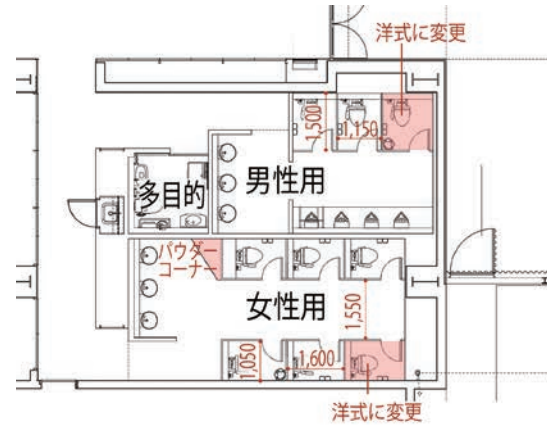
1 | 各エリアの施設改修案

1階 トイレ現況図



男性用			女性用		多目的
手洗い	小	大	手洗い	大	
3	4	3(和式1)	3	5(和式1)	2

1階 トイレ改修案



男性用			女性用		多目的
手洗い	小	大	手洗い	大	
3	4	3	3	6	1

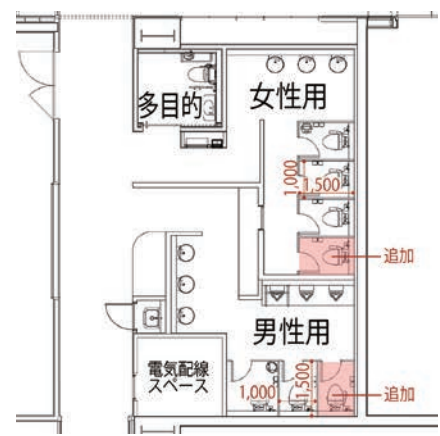
※和式便器は洋式便器に変更

3階 トイレ現況図



男性用			女性用		多目的
手洗い	小	大	手洗い	大	
3	3	2	3	3	1

3階 トイレ改修案



男性用			女性用		多目的
手洗い	小	大	手洗い	大	
3	3	3	3	4	1

※リフレッシュルームを取りやめ、個室・通路を拡張

オ デジタル化

検討内容

- フロアマップや本日の催しなどを紹介するデジタルサイネージをエントランスに設置する。
- 館内公衆Wi-Fiは、最新機器を採用し、館内全域で支障なく利用できるよう整備する。
- 現在、「大和ミュージアムNavi」、「大和ミュージアムARアプリ」等、複数のアプリケーションを提供しているが、利便性を向上させるため、今後は統一化を図っていく（指定管理者が提供するシステムについても、利用者の負荷軽減を図っていく。）。
- 「スマートチャレンジくれ」で検討していく図書・美術品等のデジタルアーカイブス化を進め、活用を図る。

カ 事務スペース等

検討内容

- 公開型収蔵庫の整備に併せて、不足する事務スペース等の整備を検討する。

キ 会議スペース等

検討内容

- 会議スペース等の不足に対応するため、市民ギャラリーの有効活用を検討する。

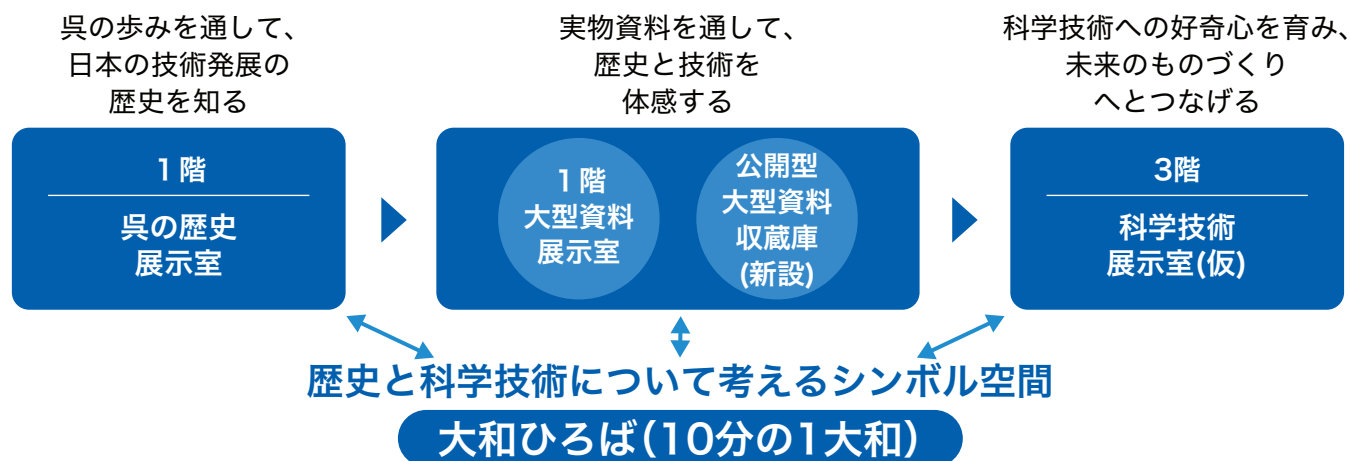
(8) 災害対策

対応方針

- 大和ミュージアムに必要な対策は次のとおりである。
 - 東日本大震災等を受け、国土交通省から発出している告示改正に従い、既存不適格となる部分について改修を行う。
 - 前述、既存不適格部分(ア)～(オ)をその対象とし、地震に対する天井材の落下等、館内避難の安全性の向上を図る。
 - 既存設置されてある天井点検口、改修されるLED照明については、SUSワイヤーを取り付け、落下防止を行う。
 - 浸水については、必要に応じて津波に対する50cmの防潮板を設置し対策を講じる。
 - 現状1階に設置された非常用発電機の上階への移設は、屋外機械置場のスペースがなく困難なため、床面から50cmの基礎にかさ上げするとともに、必要に応じて防潮板を設置し、浸水の対策を講じる。
 - 非常用発電機の容量は4階収蔵庫の照明・空調用を主とし、燃料保持期間は7日間とする。
- 公開型大型資料収蔵庫に求められる対策は次のとおりである。
 - 大地震動に対する耐震強度は建築基準法施行令の1.25倍以上とする。
 - 浸水については、必要に応じて津波に対する50cmの防潮板を設置し対策を講じる。
 - 什器(収蔵棚等)には転倒防止の措置を施す。また重要収蔵物と認められる場合は、什器の免震化を検討する。
 - 受変電設備を2階に設置し、浸水対策を行う。
 - 収蔵庫(非公開)スペース用の非常用発電機を浸水対策を講じて設置する。非常用発電機の燃料保持期間は7日間とし、地下オイルタンク+燃料小出槽を設置し、ポンプは防水型とする。
- 避難者への対応については次のとおりである。
 - 雨 の 場 合 — 気象情報等を確認しながら、早めの休館等、利用者の安全確保を図る必要があり、(台風等も含む) 多くの避難者の受け入れは想定しにくい。
 - 地 震 の 場 合 — 津波等の可能性がある場所に立地しており、避難場所として適していない。
 - そ の 他 — 大和ミュージアムは、資料保存の観点から飲食できるスペースが限られることなどから、避難者を受け入れるのではなく、資料の保存、施設の維持管理を主とした対応とする。
※その他の避難者については、状況に応じて、一時避難施設となっている隣接する「中央棧橋ターミナル」へ誘導する。

(1) 全体展示ストーリー

日本の近代化の歴史そのものである呉の歴史と、
科学技術の発展について、実物資料から学ぶ。



各エリアの改修方針

呉の歴史展示室

情報・資料の更新性を高め、貴重な展示資料の価値を引き出す環境づくり

- 展示更新頻度の向上のため、資料やグラフィックの更新が容易な仕様に刷新する。
- 展示ケースや映像展示、照明など老朽化した設備面を一新し、展示環境を向上させる。
- 戦後の展示を昭和から平成まで拡張し、現代の呉に至る通史展示を充実させる。
- 解説テキストを分かりやすく見直すとともに、電子技術等を用いて、展示解説や多言語解説を提供する。

大型資料展示室(改修案)及び公開型大型資料収蔵庫(新設)

一体的な活用による実物資料の公開と展示収蔵環境向上

- 公開型の収蔵庫棟を新たに設け、築地倉庫の大型資料を保管する。
- 産業技術史上の位置付けや太平洋戦争下での時代背景など、資料の背景や位置付けを伝える解説を行う。
- 分散収蔵している資料については、新たに建設する公開型大型資料収蔵庫に保管する。

科学技術展示室(仮)(旧・船をつくる技術展示室)

呉で培われた産業技術とその変遷から「呉のものづくり」を体感する展示環境への刷新

- 「呉のものづくり」をテーマに、科学原理や技術の仕組みとその発展の歴史について伝えることを目的に全面刷新する。
- 造船技術だけでなく、航空機開発や素材開発、加工技術など呉で発展したものづくりに視野を広げる。
- 実物展示と体験型展示を組み合わせ、広い世代の方に関心を持っていただける空間構成とする。

特記事項

- 日本の近代化そのものである呉の歴史など、大和ミュージアムならではの展示を目指し、プロジェクションマッピングなど最新のデジタル技術を用いて、博物館としての魅力を向上させるよう検討を行う。

(2) 呉の歴史展示室 改修案

呉鎮守府の開庁から現代までの呉の歩みを通して、 ものづくりの歴史を伝える展示室

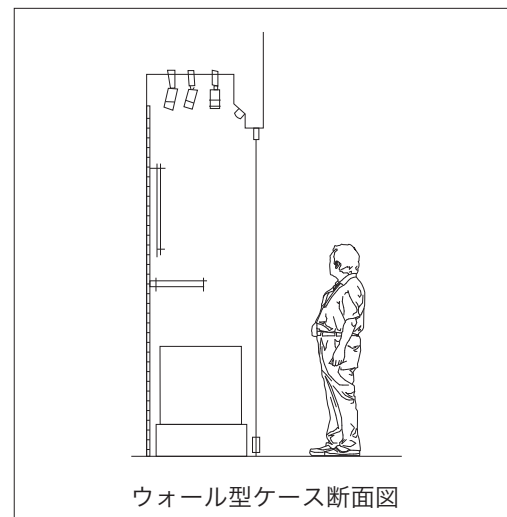
展示構成と主な改修内容

展示構成		改修内容
呉浦の社会	テ ー マ：呉鎮守府開庁前の地域社会 展示資料：「晴雨天変日誌 第一巻・第二巻」他	呉鎮守府開庁前の呉町で暮らしていた人々や産業、文化について紹介
呉鎮守府の開庁	テ ー マ：呉鎮守府開庁時の地域社会 展示資料：「呉軍港全図」、呉海軍工廠本庁舎の屋根瓦他	
呉海軍工廠の設立	テ ー マ：海軍工廠設立時と軍器国産化 展示資料：12センチ速射砲献上模型他	
生産と管理の合理化	テ ー マ：製鋼部の成立と技術教育 展示資料：呉海軍工廠製鋼部でつくられた甲鉄他	呉海軍工廠の技術解説を強化
軍港都市・呉	テ ー マ：市民生活と文化 展示資料：呉市街地図、風景絵葉書他	海軍工廠の進展とともに人口が増加し、都市化していく呉の生活・文化を紹介
広海軍工廠と第十一海軍航空廠	テ ー マ：造機と航空機の技術 展示資料：鋳型構成要領写真、89式飛行艇模型他	広工廠の役割についての解説を強化
戦艦「大和」	テ ー マ：「大和」の概要と乗組員 展示資料：戦艦「大和」天覧模型、「大和」設計図面他	戦艦「大和」の図面展示を充実。地形模型へのプロジェクションマッピング演出で、建造当時の軍港呉の全容を伝える。
戦時下の呉	テ ー マ：太平洋戦争の概要と呉への影響 展示資料：進水式支綱、荒勝調査団調査報告他	戦時下の呉の市民生活について紹介
終戦と呉	テ ー マ：終戦時の呉海軍工廠と呉地域の実態 展示資料：呉鎮守府の防空施設図面他	戦後の呉海軍工廠及び市民生活を紹介し、戦後復興の経緯を紹介
戦後復興と呉	テ ー マ：工廠跡地と造船業の拡大 展示資料：播磨造船所呉船渠配置図他	呉におけるNBCを始めとする重工業(造船業)の発展について紹介
呉の現在	テ ー マ：インフラ整備の拡充と大合併 大和ミュージアム建設 展示資料：合併協定書他	平成～現代を含む展示に刷新。戦後復興から現在までの呉の発展と変化を紹介

呉の歩みを知るとともに、大和の乗組員・市民の戦争体験などから戦争の悲惨さ、平和の大切さを考える。

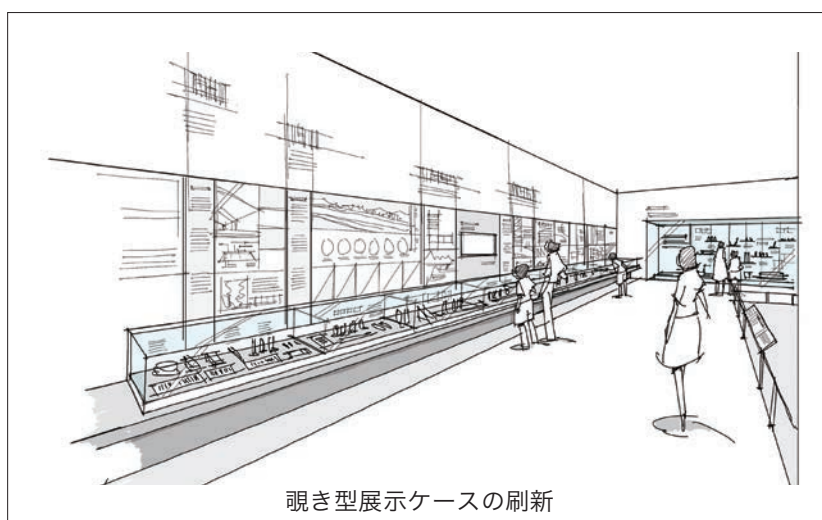
設備改修

- 展示容量を増やし、フレキシブルに活用できる展示ケースの導入
例)一部をウォール型ケースに変更
- 展示環境向上・ランニング環境コスト削減のための、展示照明のLED化
- 映像音響設備の刷新と、館内動線を踏まえた配置変更



ユニバーサルデザインの導入

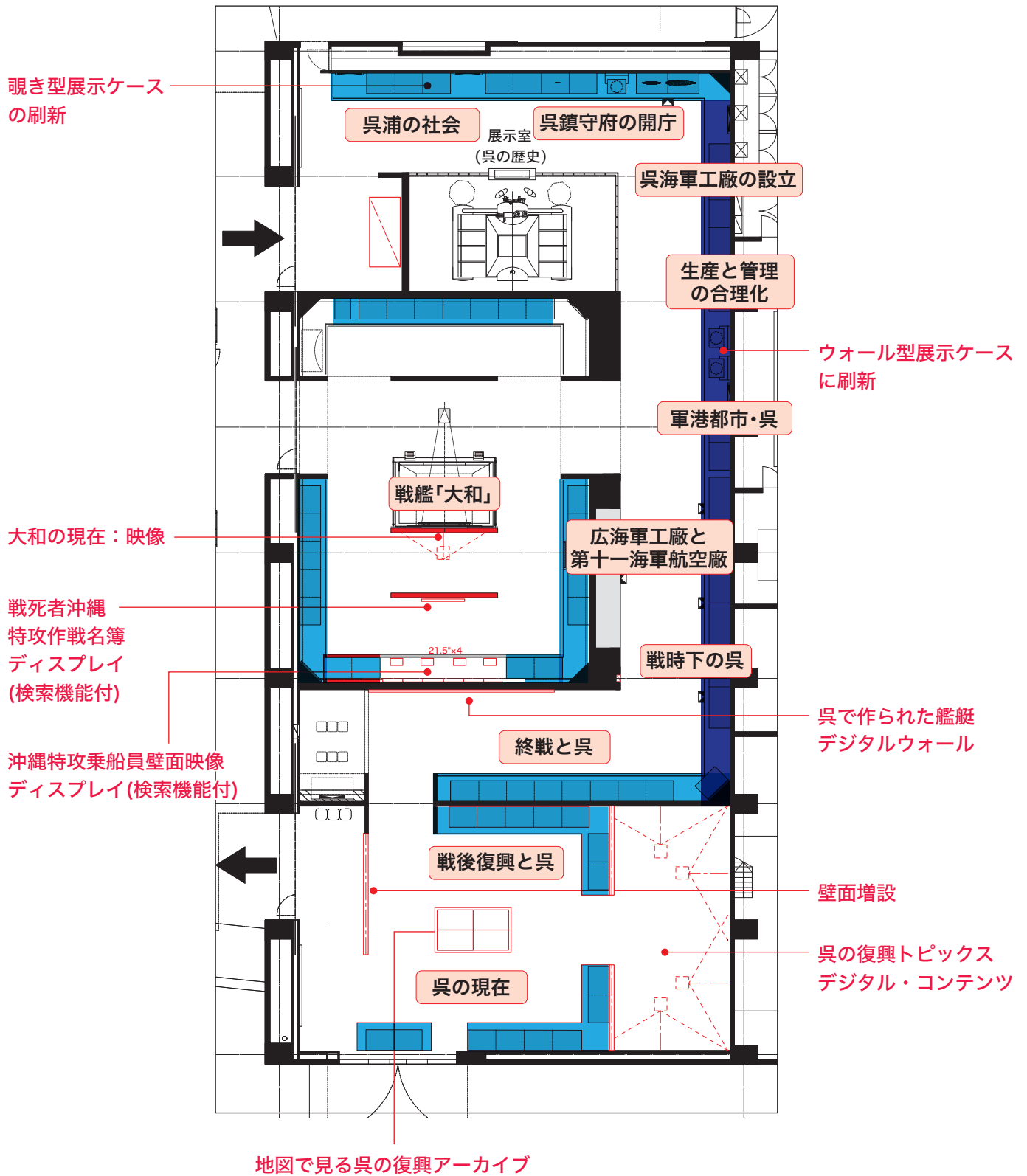
- ユニバーサルデザインに配慮した展示ケース・グラフィックの仕様変更
例)車いすでも近づきやすいカウンター型展示台
- ハード整備に加えて、デジタル技術を活用し、誰にでも優しい展示を目指す。



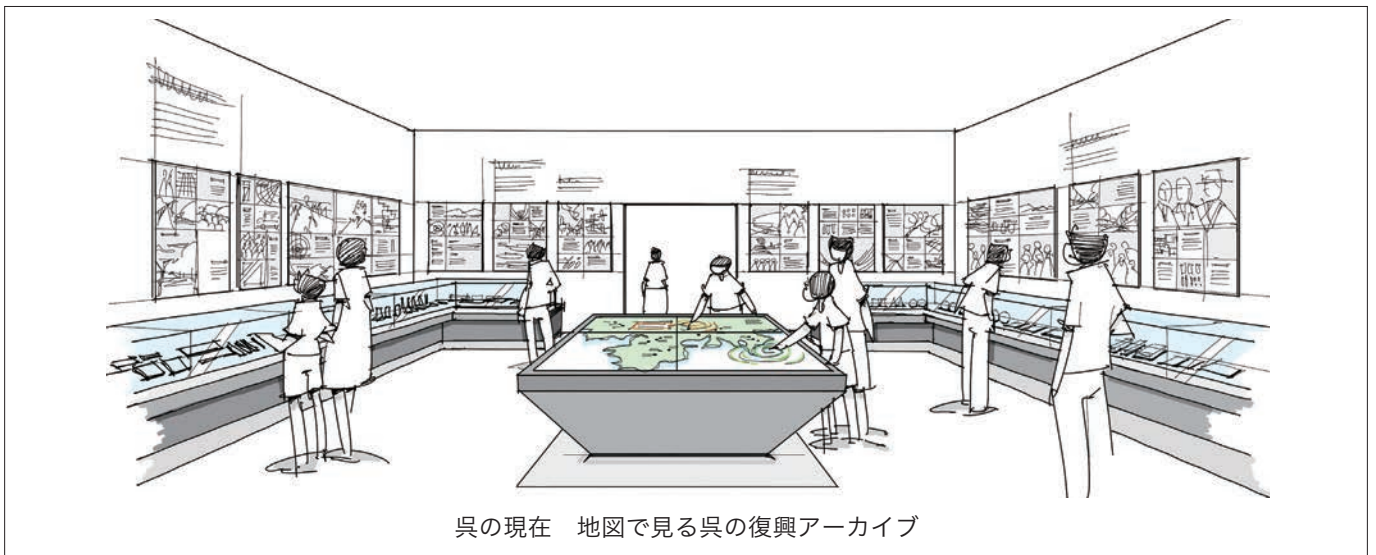
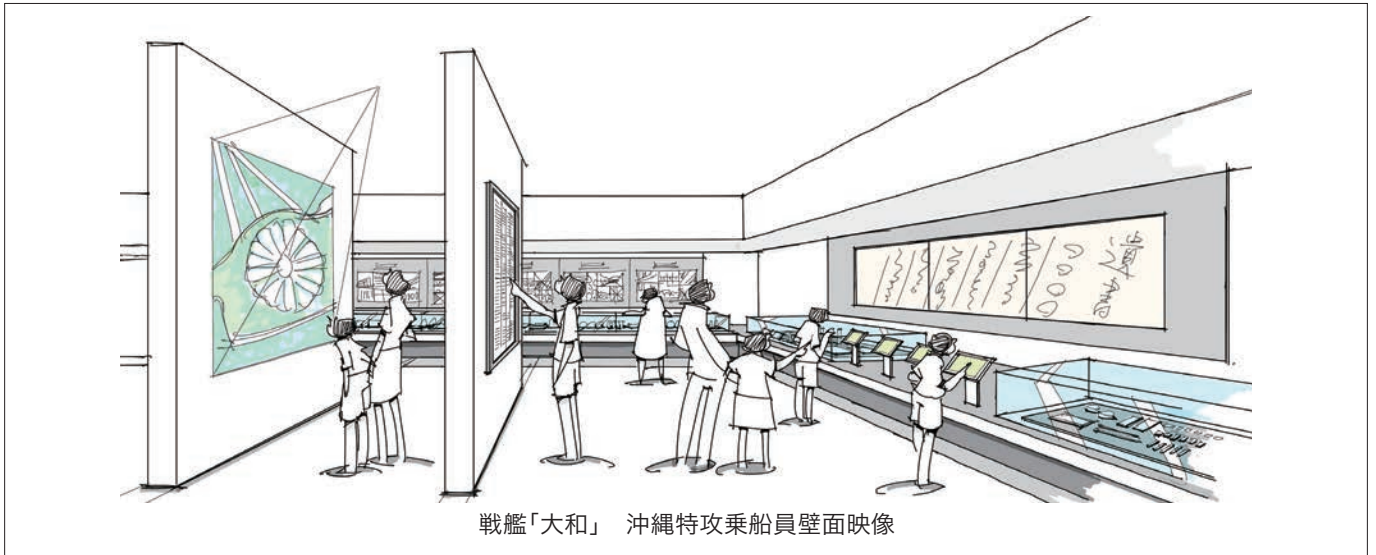
デジタルアーカイブスの作成・公開

- 図面や写真、文献資料など、蓄積した膨大な情報をデジタル化し、閲覧できる情報検索システムの導入
※来館せずとも展示内容を確認できるデジタルアーカイブスなどインターネット上での公開活用も検討

展示改修概要図



■ 展示改修イメージ図



(3) 大型資料展示室(改修案)及び公開型大型資料収蔵庫(新設)

大型実物資料等を通して、近・現代の技術開発を知ること、歴史と技術発展への理解を深めることを目的とする展示室と収蔵庫の新設

主な改修内容

大型資料展示室

実物資料

テーマ: 実物資料から戦争の悲惨さや平和の大切さを考える。
 展示資料: 特殊潜航艇「海龍」
 零式艦上戦闘機六二型
 九三式魚雷、二式魚雷

改修・整備内容

南側窓面展示資料を収蔵庫棟へ移設し、収蔵庫棟の出入口を設ける。

公開型大型資料収蔵庫(新設)

実物資料

収蔵資料: 特攻兵器「回天」
 水雷関係資料(海龍内部装置機器・機雷類)
 大和・陸奥引揚品資料

呉工廠の技術資料

収蔵資料: 造船関係資料
 水雷関係資料(深度機・起動発停機等)
 操舵関係資料
 砲煩・火工技術系資料
 しんかい・まんぼう資料

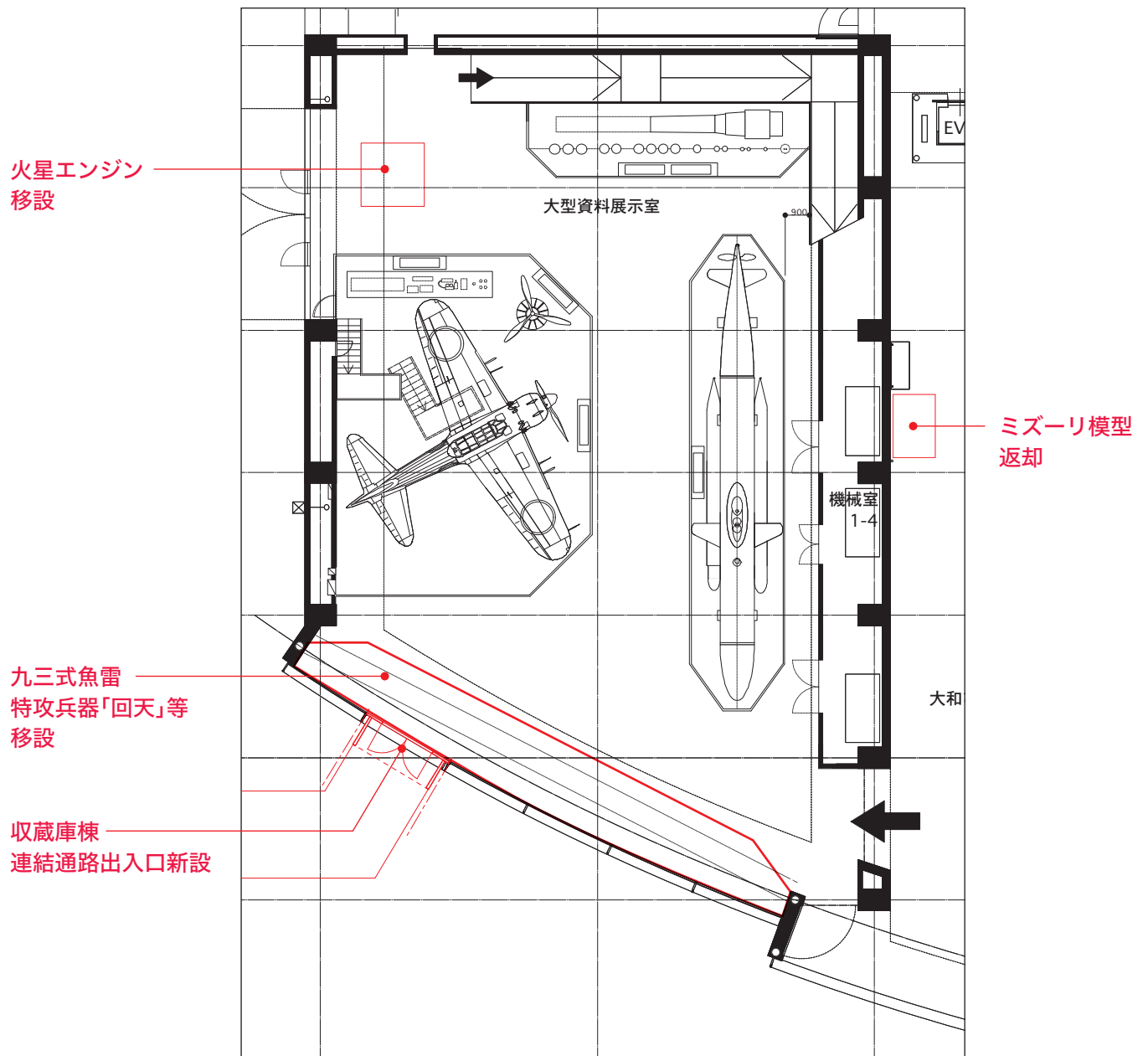
公開型大型資料収蔵庫として整備。資料入替を可能にするためクレーン等設備を併設

公開型大型資料収蔵庫に併設する収蔵庫に保管

設備改修内容

- 大型資料展示室から公開型大型資料収蔵庫(新設)への動線を確保する。
- 資料公開に際しては、公開型大型資料収蔵庫(新設)の適切な保存環境維持を最優先とする。

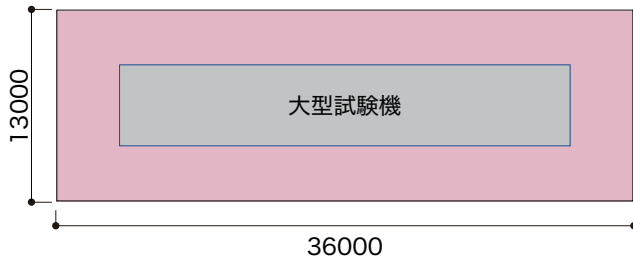
大型資料展示室 展示改修概要図



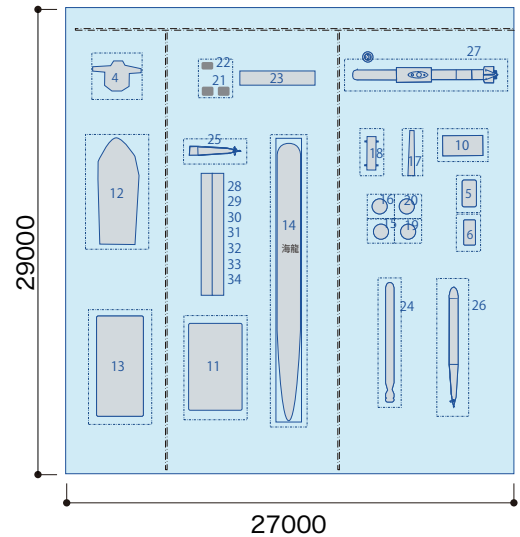
2 | 各エリアの展示改修案

公開型大型資料収蔵庫 レイアウトイメージ

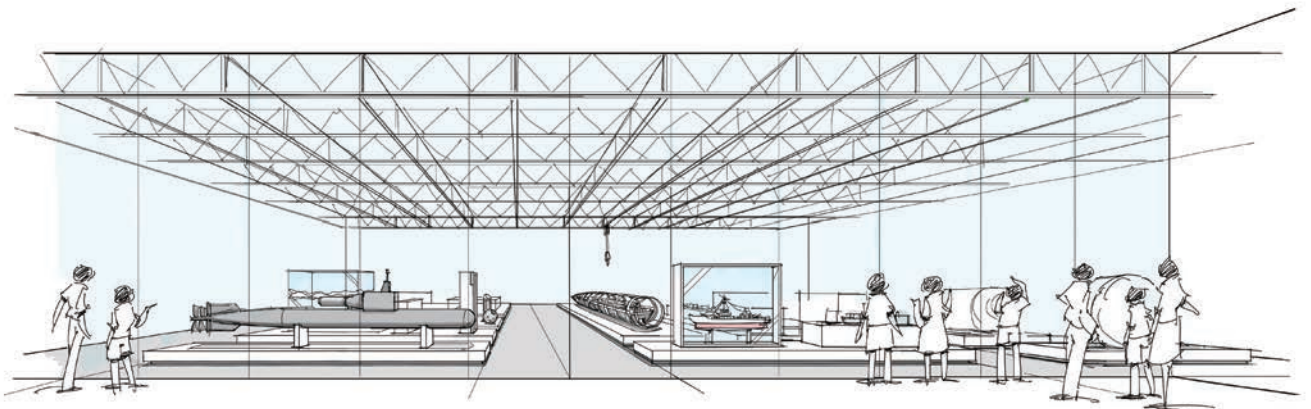
大型試験機収蔵スペース：約450m²



収蔵資料スペース：約750m²



公開型大型資料収蔵庫 イメージ図



多数の資料を収蔵し、搬出入等の室内作業を円滑に進めるため、通路からの見学を想定する。ただし、期間限定での室内見学やガイドツアーについて検討を行う。

(4) 科学技術展示室(仮) 改修案

ものづくりの地としての呉の歴史をふまえ、過去に培われた技術、現在に引き継がれている技術、そして新たに加わった技術について学ぶとともに未来を創造する科学展示室

展示構成

テーマ：呉海軍工廠、広海軍工廠、第十一航空廠の技術がどのように引き継がれてきたかを知る。
 展示手法：実物資料展示、模型体験展示、映像及びグラフィック解説

船(水中)、飛行機(空中)、宇宙への技術の変遷を紹介し、その技術と呉の技術との関わりを説明する。

呉海軍工廠	明治～昭和		現在		体験装置
	部門	技術(当時)	展示資料	立地企業等	
砲熷部	造兵(砲熷・火工)	工具類	三菱重工 淀川製鋼 ダイクレ	機械(ボイラー) 製鋼、金属	要素技術体験 (ポンプ・ベアリング)
砲熷実験部					
水雷部	造兵(水雷)	工具類	サンワテクノス	機械(配管)	
電気部	造兵(電気、電池等)				
電気実験部					
造船部	造船	工具類	JMU	造船	原理体験(浮力)
造船実験部					
造機部	造機	三段膨張エンジン	IHI	航空(エンジン)	動態プロジェクション展示
製鋼部	造兵(製鋼)	甲鉄図面、工具類	日本製鉄	製鋼	
魚雷実験部	造兵(魚雷)				
潜水艦部	造船				
火工部	造兵(火薬・火工)		海上保安大学校		

広海軍工廠・第十一海軍航空廠	明治～昭和		現在		体験装置
	部門	技術(当時)	展示資料	立地企業等	
飛行機部	造兵(機体)		在日米軍		原理体験(揚力) 動態プロジェクション展示
発動機部	造兵(航空発動機)	「蒼」エンジン			
素材部	造兵(材料)				
造機部	造機(罐、推進器他)	2式飛行艇プロペラ	王子マテリア 広島M&M	製紙 製鋼・機械	飛行艇構造展示
機関実験部	造機(罐、補機他)		新日本造機	造機 (機械、補機)	
工作機械実験部	造機(工作機械)				
鋳物実験部	造機(鋳物)	「赤城」推進器資料	中国工業	機械(容器)	

設備改修内容

- 展示照明をLED化する。
- 安全に配慮した空間は位置と体験装置の見直し。
- メンテナンスや部品交換が容易な装置へ刷新する。

2 | 各エリアの展示改修案

展示改修概要図

呉海軍工廠

砲熷部・火工部

潜水艦部・電気部

造船部

魚雷実験部・水雷部

製鋼部

造機部

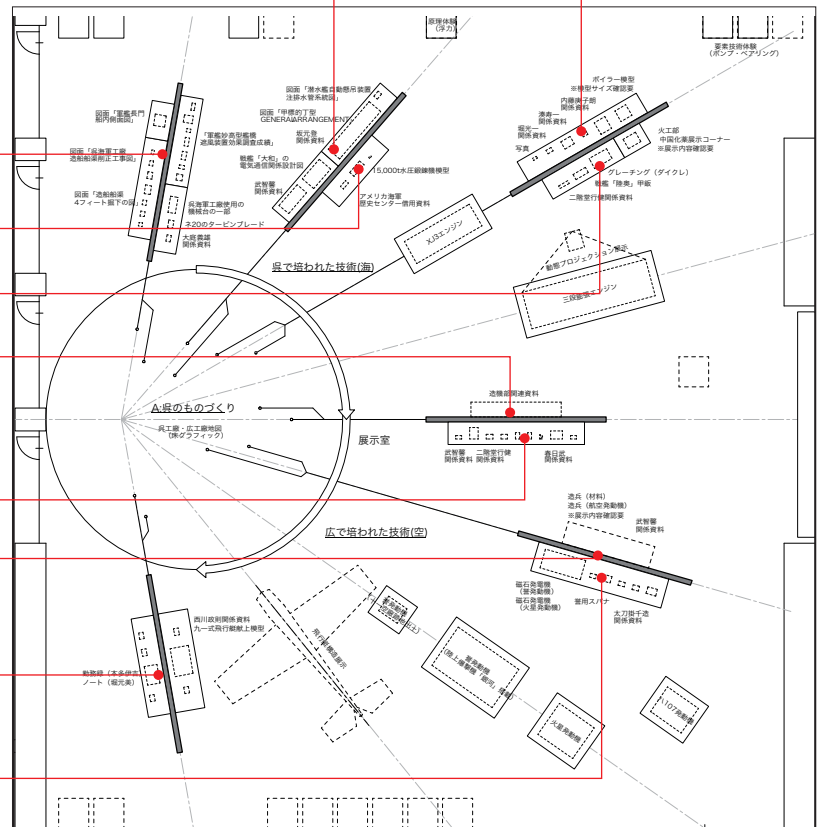
広海軍工廠・第十一海軍航空廠

造機部・機関実験部・工作機械実験部

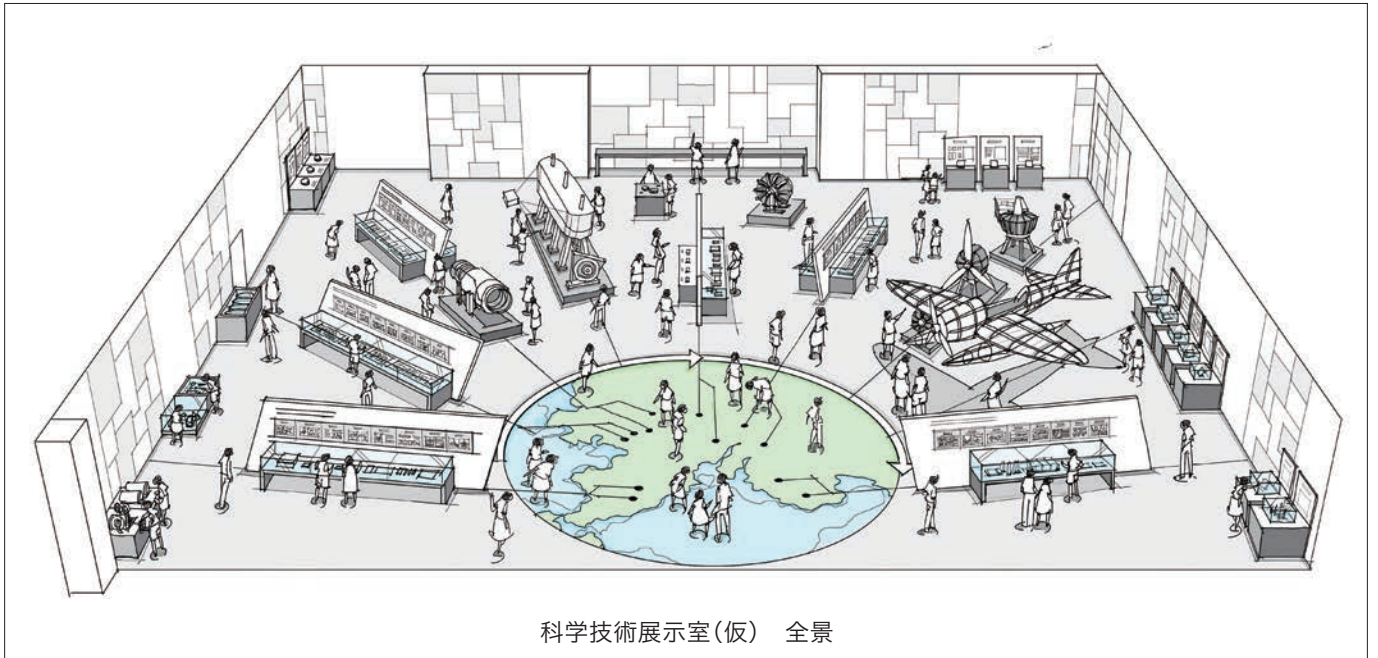
鋳物実験部・素材部

飛行機部

発動機部



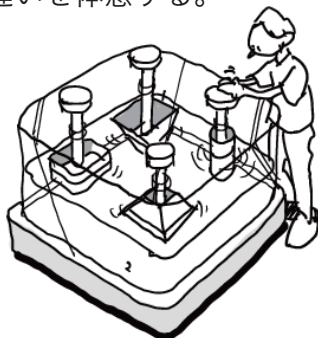
■ 展示改修イメージ図



体験展示例(案)

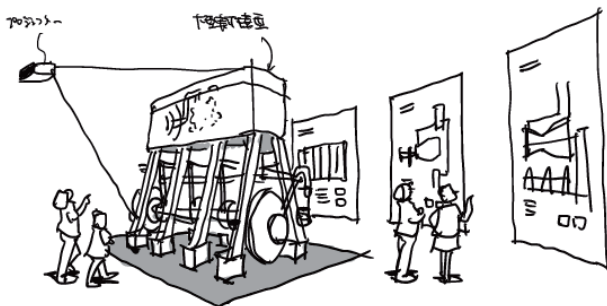
■ 原理体験 浮力実験

水中に体積の異なる4つの容器を沈めることでその浮力の違いを体感する。



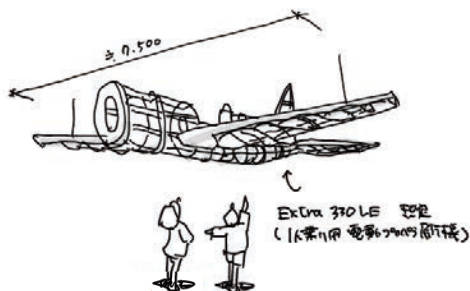
■ 機関・機械構造展示

三段膨張エンジンにプロジェクションマッピング演出を行い内部での機関の動きを紹介。実物大のエンジンのスケールを体感し、そのしくみを理解する。



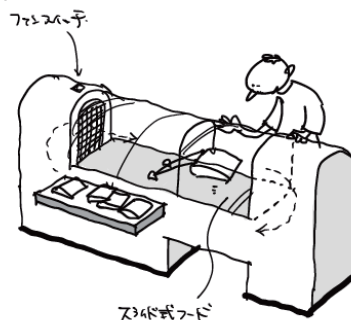
■ 飛行艇の構造展示

飛行艇特有の構造をフレーム模型を通して理解する。小型機模型と比べてみることで、違いをより深く理解する。広工廠で研究開発されていた歴史もあわせて解説する。



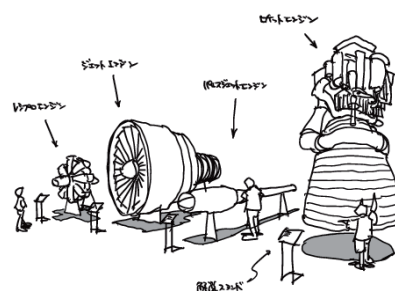
■ 原理体験 揚力実験

小型の風洞装置に様々な断面の翼を設置し、揚力の違いを体感する。



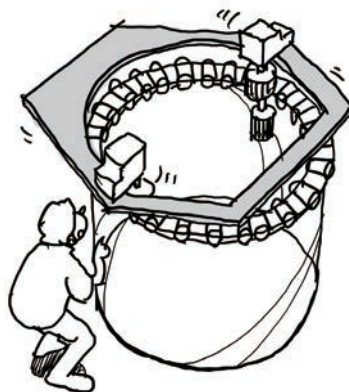
■ 航空機エンジンスケルトン構造展示

ピストンエンジン、タービンエンジン、ダクトエンジン、ロケットエンジン等、航空原動機の5種別ごとの動きの違いやしきみを比較しながら理解する。※各エンジンは反面スケルトンで展示。ハンズオン要素も検討する。



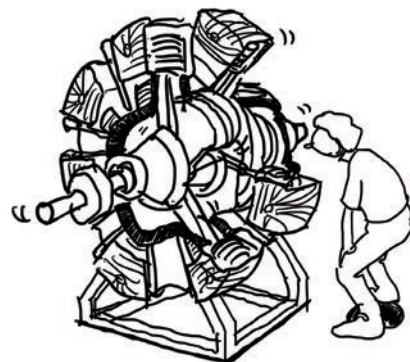
■ 要素技術体験 (ポンプ・ベアリング)

回転機構のしくみ模型装置



■ 動態プロジェクション展示

「誉」エンジンしくみ模型装置
近づいたら自動で内部が動く。



(1) 情報発信の取り組み

館内ガイドシステムの見直し

- スマートフォン向けのガイドアプリやDSガイドなど、複数にわたる館内のデジタルガイドシステムの機能を可能な限り統一し、情報の充実と利用促進を図る。
- 館内ガイドについては、QRコードを通して、解説・多言語解説・音声映像視聴にアクセスできるなど、利用が簡便な仕組みを取り入れる。

インターネットを用いたアウトリーチ

- 3DビューやVRを用いた館内展示のバーチャルミュージアムの公開や、遠隔操作ロボットを使ったリモート見学ツアーの配信など、館外に対しても展示見学や教育普及活動の提供ができる仕組みの導入を検討する。また、英語を始めとした多言語キャプションや同時翻訳でのサービス提供など、海外からの利用も想定しながら検討を進める。
- 学校や家庭での学習や事前学習に使用できる、ワークシートの作成・配布とホームページでの公開を検討する。

デジタルアーカイブスの作成・公開

- 図面や写真、文献資料のデジタル化を強化し、インターネット上で閲覧利用できるデジタルアーカイブスとして、公開することを検討する。併せてオーラルヒストリーの収集に取り組み、デジタルアーカイブスの充実を図る。
(現状では、収蔵資料データベースでの一部公開を除き、館内限定公開が基本)
- 公開時にはキーワードタグなどで検索精度を高めるだけでなく、各資料に英文のタイトルやキャプションをつけて英文検索を可能にするなど、日本国内だけでなく世界中から容易に活用できるよう配慮する。利用促進を目指して、ホームページでの公開だけでなく、国内外の横断的な検索サービスへの連携も検討する。
- データの公開・提供手法については、導入コストや、広報効果、利用条件や権利所在の課題を踏まえ、独自システム構築と外部サービス導入の両面からメリット・デメリットを加味して、慎重な検討を進めていく。

連携ネットワークの強化

- 港の博物館ネットワークや広域連携、姉妹館協定を結んだ戦艦ミズーリ記念館との関係など、開館からこれまでに情報交換、人的交流、資料貸借や企画展開催などで国内外の施設とつながってきたネットワークに加え、幅広い連携となるよう努めていく。
- デジタルアーカイブスの連携共有、リンク集といった情報ポータルを提供や、リモート講演会やバーチャル企画展といった共催イベントの開催など、インターネットでの発信力や即時性を活かした連携策についても今後企画検討を進めていく。

5章 リニューアル開館に向けて



リニューアル開館に向けて

(1) 施設改修・展示改修

令和4年度に基本設計、令和5年度に実施設計を行い、開館20周年(令和7年度)のリニューアルオープンに向け、既存不適格部分等の施設改修や、展示改修を行う。

(2) 収蔵庫棟、駐車場、屋外整備

収蔵庫棟や駐車場のレイアウトが決定できないため、施設や展示の改修とは切り離して考え、令和7年度以降に整備を行う。

(3) 全体スケジュール(予定)

年度	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027
施設改修・展示改修ほか	基本計画	基本設計	実施設計	工事	開館		
収蔵庫棟・駐車場ほか				基本設計	実施設計	工事	開館
資料等のデジタル化		準備 ・資料抽出 ・連携先調査、調整	制作・更新				

(4) 概算事業費

既存改修(施設・展示)	約30億円
収蔵庫棟(公開型大型資料収蔵庫・収蔵施設)ほか	約38億円 ※不確定要素が多いため、今後精査が必要
総合計	約68億円

※設計費・施工費含む